

肉用牛繁殖経営

新規就農の手引き



牛を飼育し、牛肉を生産する畜産業を「肉用牛経営」といいます。肉用牛経営には、子牛を生産・販売する「肉用牛繁殖経営」、子牛を購入し育ててお肉として販売する「肉用牛肥育経営」、繁殖と肥育を一貫して行う「肉用牛一貫経営」があります。

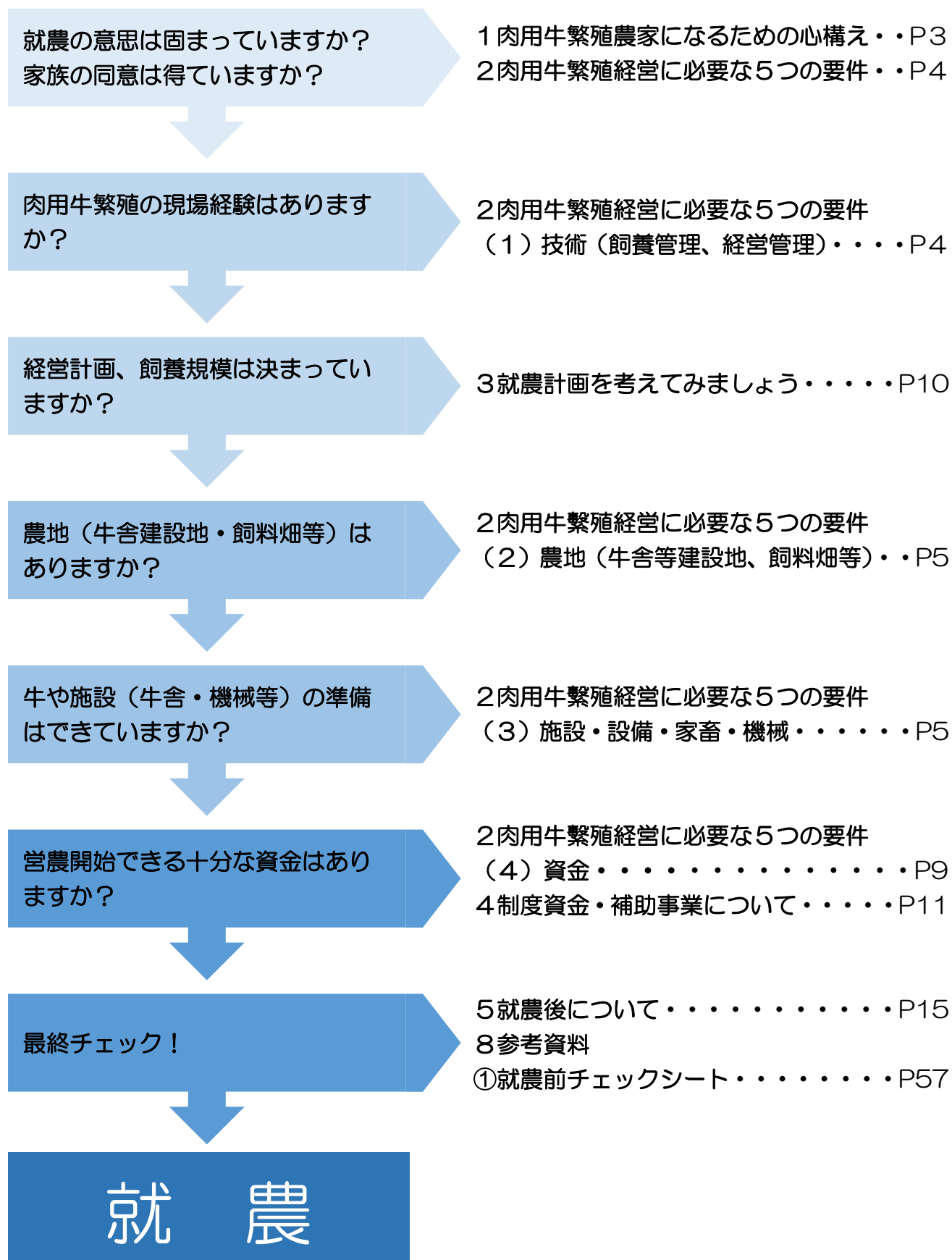
この資料では、肉用牛繁殖経営として就農するまでの流れや注意点等を具体的にまとめました。

これから肉用牛繁殖農家を目指す方は、本書を一読し、肉用牛繁殖経営の入門書としてご活用下さい。

菊池地域農業協同組合

熊本県県北広域本部

繁殖農家を目指すフローチャート



 目 次

1 肉用牛繁殖農家になるための心構え	3
2 肉用牛繁殖経営に必要な5つの要件	4
(1)技術（飼養管理、経営管理）	
(2)農地（牛舎等建設地、飼料畑等）	
(3)施設・設備・家畜・機械	
(4)資金（設備投資資金・運転資金・生活資金）	
(5)地域農業者や関係機関との信頼関係	
3 就農計画を考えてみましょう	10
4 青年等就農計画と制度資金・補助事業について	11
5 就農後について	15
6 菊池地域の経営指標 ～目標とする経営体の姿～	18
7 菊池の先輩農家事例集	22
8 参考資料	56
①就農前チェックシート	
②頭数別牛舎設計モデル	
③和牛子牛の哺育・育成飼料給与体系	
④お問い合わせ先	



1 肉用牛繁殖農家になるための心構え

肉用牛繁殖農家になるためには、十分な熱意と心構えが必要です。就農活動をはじめる前に、まずは以下の4つについて考えてみましょう。

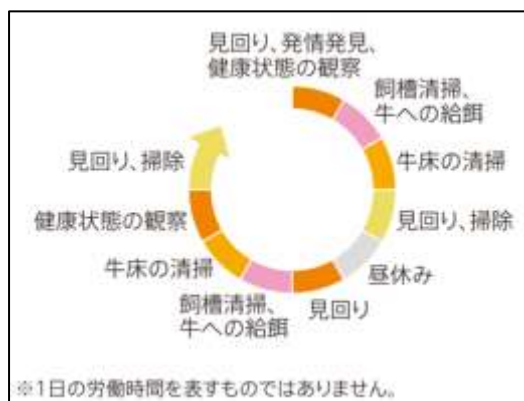
①ライフプランについて家族で話し合しましょう

肉用牛繁殖経営に休みはありません。毎日欠かすことのできない作業があり、多額の資金も必要です。また、**家族の同意と協力が不可欠**です。パートナーや子どもがいる場合は、今後の生活費や教育費、マイホームの購入等、肉用牛経営を踏まえたライフプラン（人生設計）について就農前にしっかりと話し合しましょう。



[参考]肉用牛繁殖経営の1日（例）

中央畜産会「牛飼いになりませんか？肉用牛経営を目指す方へ」引用



その他適宜行う作業

分娩前後	分娩兆候の確認、分娩補助、出生子牛のケア、耳標装着、子牛登記等
堆肥処理	堆肥出し、切り返し、堆肥散布等
自給飼料	播種、収穫、耕起、肥料・除草剤散布等
繁殖管理	繁殖登録、発情看視、人工授精（受精卵移植）、妊娠鑑定等
その他	市場出荷、敷料の交換、予防注射、治療、除角、去勢、削蹄等

②地域や同業者とのコミュニケーションを大切に

肉用牛繁殖農家として経営を開始した時点から、あなたは経営者です。1人の経営者として、地域住民や農家とのつながりを大切にしましょう。特に、農業社会は地域のつながりや助け合いが必要不可欠です。地域行事や会合、JA部会等へ積極的に参加し、良好な関係を築きましょう。

③常に情報収集を行い学ぶ姿勢を心掛け、新しいことにチャレンジしていきましょう

就農後も、肉用牛農家同士の情報交換や先進的な取り組み事例の情報収集を行いましょう。積極的に学びチャレンジする姿勢が、儲かる経営につながります。

④ワークライフバランス

家畜の飼養管理は休むことができませんが、農業経営は体が資本です。肉用牛ヘルパー等をうまく活用してワークライフバランスを保ち、健康に過ごしましょう。



2 肉用牛繁殖経営に必要な5つの要件

就農には、①技術（飼養管理・経営管理）、②農地（牛舎建設地、飼料畑等）、③施設・設備・家畜・機械、④資金（設備投資資金・運転資金・生活資金）、⑤地域農業者や関係機関との信頼関係の5つの要件が必要です。特に非農家出身者の新規参入は、親の経営基盤がある農業後継者と異なり、就農に必要な土地、家畜、建物、施設・機械等を持っていないため、自分で確保しなければなりません。

（1）技術（飼養管理・経営管理）

営農に必要な技術は、[就農研修](#)や[地域の農家・農業法人等へ就職](#)することで学べます。学ぶ内容は、大きく①飼養管理技術、②経営管理技術の2つです。具体的には、下図のような技術が必要になります。一般的には県が認定する研修機関や、知り合いの農家、優良な経営を行う農家等の元で、実践的な研修を行います。

【飼養管理技術と経営管理技術】

飼養管理技術	経営管理技術
・繁殖管理 （母牛の健康維持、発情看視、人工授精、分娩対応等） ・子牛の哺乳管理 ・育成管理 ・衛生管理 （家畜飼養衛生管理基準の順守） ・良質な堆肥生産 ・自給飼料生産 （耕起、播種、収穫等）	・生産管理 （生産計画作成、飼料や必要資材の調達等） ・労務管理 （労働環境の整備、各種保険等） ・財務管理 （資金運用、青色・税務申告、資金繰り等） ・販売管理 

これら技術の取得は、通常1～3年程度の時間をかけて行います。これは、自然条件が関係する産業の特性から、1年間を1サイクルとし、1年目は指導のもと、2年目は主体性をもって、3年目は2年目の不足した技術を補いながら経営準備を行う、という考えに基づきます。

【技術取得のイメージ】

	3年目 1人で一連の作業ができる	疑問・不安を解消する。技術を身に着ける。
	2年目 補助があれば一連の作業ができる	1年目の学びをもとに自分でやってみる。
	1年目 作業補助（1人ではできない）	指導のもと、繁殖経営の1年間の流れと基本的な技術を学ぶ。

農業高校・農業大学校卒業者や実家の牧場で働いていた方も、1か月から数年程度は他所

の牧場で現場の技術や経営のノウハウを学ぶことが多いようです。また、菊池地域では **JA 菊池キャトルブリーディングステーション** が認定研修機関となっており、実際にここで学んだ卒業生が就農を果たしています。

就農を決意してから実際に牛を飼い始めるまでには、各種手続きや融資借り入れ等、様々な準備を行う必要があり、**早くても数か月**はかかります。その間に、近隣の農家の手伝いやバイト等を行い、実践的な技術や経営ノウハウを学ぶのも良いかもしれません。

また、現場における実践的な研修以外にも、JA や金融機関、行政機関等が実施する講座や現場見学・研修会等も積極的に受講し、知識を深めていきましょう。

（２）農地（牛舎等建設地、飼料畑等）

繁殖経営を開始するには、牛舎を建設するための土地や飼料作、堆肥を散布する畑等が必要です。農地は、離農農家等から購入や借入（リース）により取得します。スムーズに農地を取得するため、就農前の早い段階から譲渡者や地域住民と良好な関係を築いていきましょう。十分な自己資金がない場合は、就農直後の負担が軽減されるリース方式が望ましいです。

また、万が一牛が **口蹄疫** 等の **悪性家畜伝染病** に感染した場合、その死体は埋却または焼却する必要があるため、牛の所有者は **埋却予定地を確保** しなければなりません。平常時は飼料畑として使っている農地を埋却予定地として設定することも可能なため、農地を購入・借入できる余裕があれば、確保しておきましょう。

なお、一般的な疾病等で死亡した牛を埋却することは禁止されています。詳細は P15 をご覧ください。

☆農地法の許可申請

農地を取得または借入する際には、農地法の許可が必要です。取得の場合、許可を得ないと土地の登記ができません。（窓口：市町村農業委員会）

自給飼料等を作るための畑：農地法第3条許可申請

農地に牛舎や堆肥舎等の施設を建設する場合：農地法第5条許可申請

（３）施設・設備・家畜・機械

①牛舎・堆肥舎等

牛舎等の施設は、離農農家等から **購入** または **借入（リース）** により取得するのが一般的です。新築となると、規模にもよりますが、補助事業を活用しても莫大な資金が必要になります。また、必要面積は管理方式等にもよりますが、一般的には休息場、分娩房、育成房、通路、飼料庫等を含めて、**繁殖牛 1 頭当たり 12～16 m²** と言われています（草地開発整備事業計画設計基準より）。

離農農家の牛舎を利用する場合、農地と同様に、十分な自己資金がない場合はリース方式が望ましいですが、永続的な利用は保証されません。何らかの理由により、突然牛舎が利用できなくなる可能性もあります。**契約前に所有者と話し合いを重ね、しっかりと検討しましょう。** 牛舎の築年数や状況によっては、補修等が必要になる場合もあります。



新築牛舎



空き牛舎改修（スチール・屋根）

また、家畜の糞尿は、悪臭や水質汚染等の環境問題の発生源とならないように、堆肥化等の適切な処理が必要です。家畜排せつ物法に基づき良質な**堆肥化**を行い、**飼料畑への散布**や**耕種農家へ販売**することで、適切に処理していきましょう。

☆家畜排せつ物法

健全な畜産業の発展に資する目的で、『家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律』（家畜排せつ物法）が平成 11 年に制定され、同年 11 月 1 日に施行されました。

この法律では、家畜排せつ物を処理や保管する際に守らなければならない管理基準があり、牛では 10 頭以上飼養している場合から基準対象になります。

【管理基準の内容】

1 管理施設の構造設備に関する基準

①糞など固形状の家畜排せつ物を管理する施設は、床を**不浸透性材料**（コンクリートなど汚水が浸透しないもの）で築造し、適当な**覆い**と**側壁**を設けること

②尿やスラリーなど液状の家畜排せつ物を管理する施設は、**不浸透性材料**で築造した貯留槽とすること

2 管理の方法に関する基準

①家畜排せつ物を、管理施設で管理すること

②管理施設の定期的な点検を行うこと、管理施設の破損を遅滞なく修繕すること、装置の維持管理を適切に行うこと

③家畜排せつ物の年間発生量、処理方法、処理方法別の数量について記録を行うこと



（堆肥舎の例）床と側壁はコンクリート、
上は屋根で覆われている

なお、新たに牛舎等を建設・取得する場合には、**建築基準法**や**水質汚濁防止法**等にも留意しましょう。設計士や行政機関等に相談し、各種法令を遵守するよう努めましょう。

☆建築基準法、畜舎等の建築等及び利用の特例に関する法律

畜舎等を建築する場合、一定基準のものは「建築確認申請」が必要です。

【建築確認及び検査に係る特例（４号特例）】

都市計画区域外で、

木造建築物の場合、２階以下かつ５００㎡以下かつ高さ１３ｍ・軒高９ｍ以下

木造以外の建築物の場合、平屋かつ２００㎡以下

の建築物は建築確認が不要になります。

なお、令和３年５月１９日に「畜舎等の建築等及び利用の特例に関する法律」が公布され、本法律による基準の適用を希望する方は、「畜舎建築利用計画」を作成して都道府県知事の認定を受けた場合、建築基準法の適用が除外されます。

詳しくは畜舎等の設計士または熊本県農林水産部畜産課までお尋ねください。（参考：P62 関係機関お問い合わせ先）

☆水質汚濁防止法

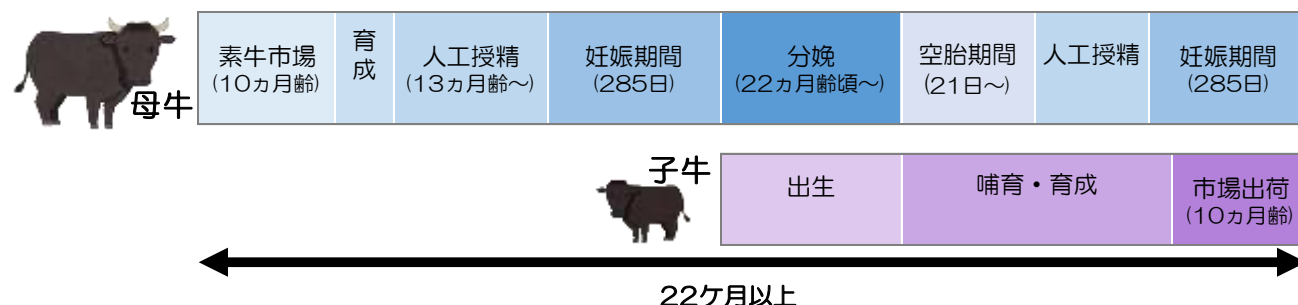
牛舎等からの排水が河川や水路等の公共用水域へ流れ込む場合、「水質汚濁防止法」に基づく排水基準値をクリアしなければなりません。

肉用牛繁殖経営では、総面積２００㎡以上の牛房が「特定施設」となり、これを有する事業場が基準対象となり、保健所への届出が必要です。

詳しくは菊池保健所衛生環境課までお尋ねください。（参考：P62 関係機関お問い合わせ先）

②家畜

家畜は、市場購入や離農農家からの買い取り等により取得します。繁殖経営は子牛販売が主な収入源ですが、市場で繁殖用素牛を購入すると、収入が得られるまでに最低でも２２ヶ月、約２年程度かかります。



就農直後から収入を得るためには、離農農家から子牛等も含めてまるごと買い取ったり、成牛市場で妊娠牛を購入したりする方法があります。それぞれのメリットデメリットは次ページのとおりです。

購入元	購入時期	メリット	デメリット
家畜市場	素牛	選択肢が多い（血統や体型等が選べる）	価格が高い 収入（出荷）までに2年程度時間を要す
	初妊牛	比較的早く収入が得られる	価格が高い 何かしらの欠点（気性が荒い等）がある可能性
	妊娠牛	比較的早く収入が得られる 高齢になるほど価格が安い	若齢では何かしらの欠点（気性が荒い等）がある可能性 高齢になるほど子牛の発育不良や分娩後不受胎等のリスクが上がる
離農農家等	素牛	比較的安い 飼養者・牛の素性がわかる	移譲者を探す必要がある 市場より選択肢は少ない
	初妊牛	比較的安い すぐに収入が得られる 飼養者・牛の素性がわかる	移譲者を探す必要がある
	妊娠牛	比較的安い すぐに収入が得られる 飼養者・牛の素性がわかる	移譲者を探す必要がある
	群購入	すぐに安定した収入が得られる 牛のストレスが軽減できる 飼養者・牛の素性がわかる	就農直後から哺育、育成、分娩等の作業がある 牛群の構成によっては更新が必要

③機械

空き牛舎等を購入または貸付により取得する場合は、機械も一緒に取得できないか確認しましょう。また、離農農家や機械の更新を考えている知り合いの農家等から中古購入する方法もあります。

【必要な機械の例】

トラック（家畜・資材運搬）



トラック（堆肥運搬）



ホイールローダー（堆肥出し、切り返し等）



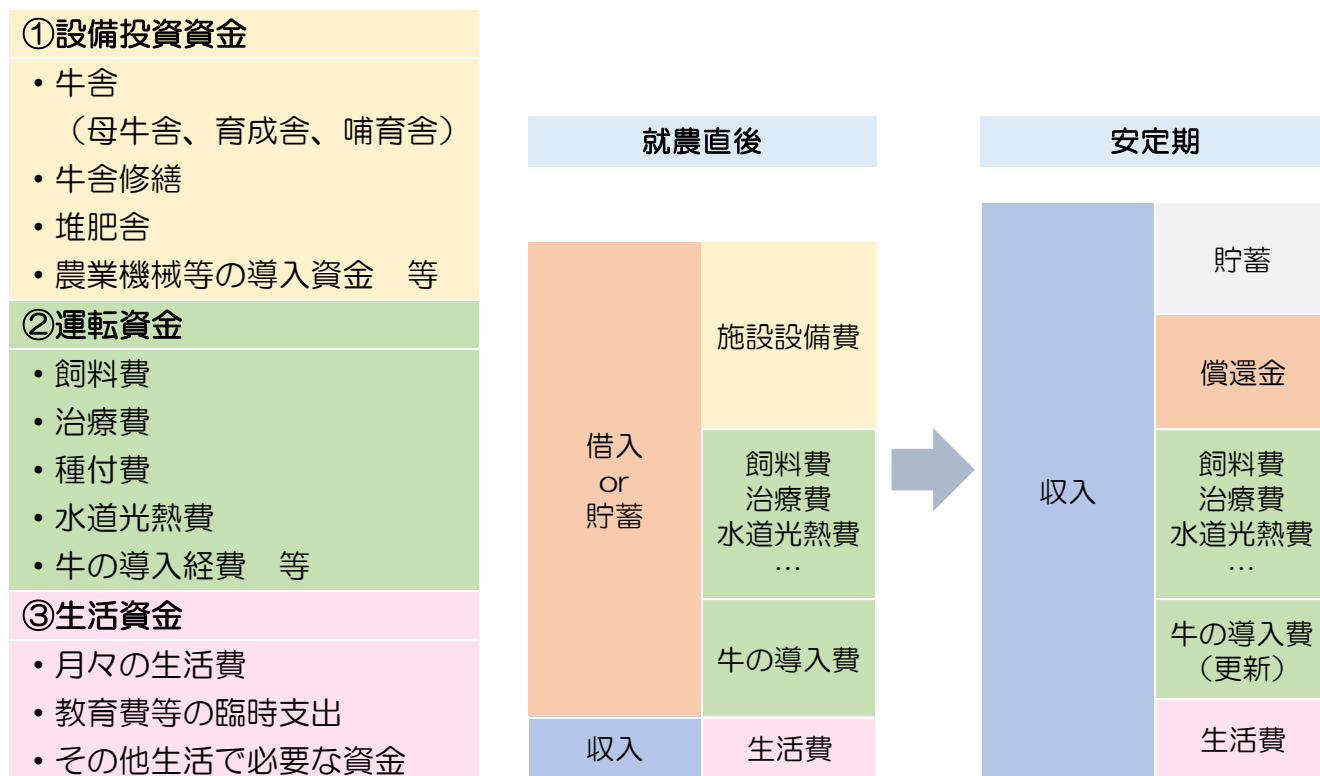
ロールグラブ（ロール運搬）



（４）資金（設備投資資金・運転資金・生活資金）

新たに繁殖経営を開始し、ある程度の収入を得て経営が安定するまでには、かなりの期間を要します。その間には、①設備投資資金、②運転資金、③生活資金が必要になります。

【主な資金使途とイメージ図】



これら資金使途の中には、無利子や低金利で借り入れできる制度資金がいくつかあります（参考：P11 青年等就農計画と制度資金・補助事業について）。しかし、安易に借り入れると償還時に経営の圧迫要因となりかねません。無理な返済計画にならないよう、JA や金融機関と相談しながら綿密に計画を作成し借り入れましょう。できるだけ多くの自己資金を用意できると、スムーズな経営開始が可能となり、返済も楽になります。

（５）地域農業者や関係機関との信頼関係

研修や就農準備を進める中で、農家や地域との接点が増えてきます。「郷に入っては郷に従え」という言葉のとおり、習う身として、その地域の慣習や風習などに早く慣れていきましょう。人脈を広げ、周辺農家や地域の信用を得ることで、就農時に土地や家畜を安く譲ってもらったり、有益な情報を教えてくれたり、就農後困ったときにアドバイスをくれたり等、必ず自身の助けになります。研修中から地域の行事等に参加し、信頼関係を築いていくことが重要です。



3 就農計画を考えてみましょう

技術習得、経営資産の取得方法等に目途がたったら、**具体的な就農計画**を考えてみましょう。肉用牛繁殖農家としての**人生設計に関わる大切な計画**です。家族と相談し、知り合いの農家や関係機関からもアドバイスをもらいつつ、自分でしっかりと考えてみてください。

就農地

- ・就農場所は決まっているか
- ・住居地と牛舎の距離（通勤時間、急な疾病・分娩等非常時の対応をどうするか）
- ・引っ越す場合、パートナーの通勤や子どもの通学に不便はないか
- ・近隣住民や農家との関係を構築できているか

経営規模・方法

- ・飼養品種（黒毛和種、褐毛和種等）
- ・何頭飼養するか(将来的な規模拡大含む)
- ・自家育成を行うか
- ・労働力は自分だけか、家族労働力や雇用労働力は必要ないか

家畜導入（参考：P7②家畜参照）

- ・牛はいつから、どうやって増やしていくか
- ・どこから購入するか
- ・**家畜動態表**の作成

団体、関係機関等

- ・どのような団体に所属するか（JA、畜産農協等）
- ・獣医師、家畜人工授精師、削蹄師の確保
- ・消毒薬や畜産関連資材取扱メーカー、ノコクズ業者、運送会社等の確保
- ・税理士、司法書士等の確保

飼料

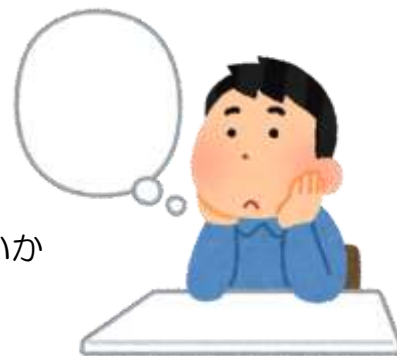
- ・飼料はどこから何を購入するか
- ・自給飼料を作るか（農地や機械はあるか、労働力は足りるか）

堆肥処理

- ・飼料畑に散布（自分の土地、知り合いの土地等）
- ・耕種農家等へ譲渡、販売
- ・JA堆肥センターへ搬入

就農準備チェック表

ある程度就農のイメージが固まったら、「就農準備チェックシート」（P57）で確認してみましょう。肉用牛繁殖経営を行うために必要なものは全て揃っていますか。足りないものはありませんか。一度見直してみましょう。





4 青年等就農計画と制度資金・補助事業について

就農計画の構想ができれば、実際に行動に移していきましょう。

「青年等就農計画」の作成

新規就農者支援制度は様々ありますが、それらを利用するには「**青年等就農計画**」を作成し、市町村に認定してもらう必要があります。

各地域に行政機関や農業団体等で構成される**サポートチーム**がありますので、まずは就農地の市町村窓口へ相談し、サポートチームの支援を受けながら計画を作成していきましょう。

【青年等就農計画とは】

①青年等就農計画（青年等就農計画認定申請書）とは？

新たに農業を始める方が、自分の将来の農業経営目標を描くもので、経営規模や生産方式、経営管理、農業従事の態様などの目標を立て、その目標を達成するために必要な事業計画、収支計画等を作成します。

市町村は、あなたが提出した青年等就農計画を、自市町村の基本構想に照らし合わせ、計画が適当かどうかを判断します。市町村から青年等就農計画の認定を受けた個人または法人を「**認定新規就農者**」といいます。

認定新規就農者になると、無利子融資の借受けや、就農支援関連事業の利用が可能となります。

②対象者

- （１）原則 18 歳以上 45 歳未満の青年
- （２）65 歳未満の特定の知識・技能を有する中高年齢者
- （３）上記の者が役員の過半数を占める法人

③対象外

- （１）農業経営を開始して一定の期間（５年）を経過した者
- （２）認定農業者

④「認定新規就農者」になるための手続き

- （１）新規就農者が青年等就農計画を作成し、就農地の市町村に提出します。
- （２）市町村が同計画を審査し、計画が適当と認められた場合、新規就農者は「認定新規就農者」となります。

制度資金・補助事業

認定新規就農者になると、以下のような支援が受けられます。新たに繁殖経営を始めるには多くの資金が必要です。最新の情報を収集し、積極的に活用しましょう。

(1) 制度資金

①青年等就農資金

借入対象者	認定新規就農者
資金使途	・施設、機械、家畜の取得等（<u>農地の取得は除く</u>） ・長期運転資金（飼料代等）
融資限度額	3,700 万円（特認 1 億円）
融資率	100%
償還期限	17 年以内（うち据置期間 5 年以内）
金利	無利子
担保	原則として融資対象物件のみ
保証人	原則として個人の場合は不要、法人の場合で必要な場合は代表者のみ
貸付機関	日本政策金融公庫

②経営体育成強化資金

借入対象者	・認定新規就農者 ・農業を営む個人、法人、団体で経営改善資金計画を融資機関に提出した者
資金使途	・農地等の取得 ・施設、機械の取得等 ・長期運転資金
融資限度額	個人：1 億 5,000 万円、法人・団体：5 億円以内
融資率	80%
償還期限	25 年以内（うち据置期間 3 年以内）
金利	0.30%（令和 4 年 2 月 21 日現在）
担保	応相談
保証人	応相談
貸付機関	日本政策金融公庫

【認定新規就農者向け特例制度】

事業内容が農地等の取得の場合、融資額のうち 1,000 万円以下の部分について、以下の特例制度が利用可能。

融資率：100%

償還期限：25 年以内（うち据置期間 5 年以内）

③農業近代化資金（認定新規就農者対象）

借入対象者	認定新規就農者
資金使途	・施設、機械、家畜の取得等 ・長期運転資金
融資限度額	個人：1,800万円（特認限度額2億円）、法人・団体は2億円以内
融資率	80%
償還期限	17年以内（うち据置期間5年以内） ただし機械、家畜は10年以内（うち据置期間5年以内）
金利	0.30%（令和4年2月21日現在）
貸付機関	J A、民間銀行

（2）活用できる補助事業等（令和3年2月1日現在）

①新規就農者育成総合対策のうち経営発展支援事業

支援額：補助対象事業費上限1,000万円（②の交付対象者は上限500万円）

補助率：県支援分の2倍を国が支援

（国の補助上限1/2 〈例〉国1/2、県1/4、本人1/4）

補助対象：機械・施設、家畜導入、リース料等

②新規就農者育成総合対策のうち経営開始資金

支援額：12.5万円/月（150万円/年）×最長3年間

補助率：10/10

③畜産クラスター事業（畜産・酪農収益力強化総合対策基金事業）

対象者：知事の認定を受けたクラスター計画において中心的な経営体となる新規就農者

補助率：1/2以内

補助対象：施設整備、リースによる機械導入

④強い農業・担い手づくり総合支援交付金

対象者：適切な人・農地プランに位置付けられた中心経営体等

補助率：3/10以内（上限300万円等）

補助対象：農業用機械、施設

⑤肉用牛経営安定対策補完事業のうち繁殖雌牛の増頭に資する簡易牛舎等の整備

対象者：生産者集団等

補助率：1/2以内

補助対象：繁殖雌牛の増頭等に必要な簡易牛舎の整備

施設の改造に必要な資材の支給及び器具機材の導入

⑥家畜導入事業

対象者：農業団体等

補助率：1頭当たり92,000円または25.2/100のいずれか低い額

補助対象：肉用育成雌牛の購入費（農業団体等が購入し新規就農者へ貸し付け）

収支（償還）計画作成

青年等就農計画では、就農して概ね5年目までの**収支計画**を作成します。肉用牛繁殖経営は大規模な投資が必要であり、償還（返済）する金額も大きくなるため、資金を借りる場合はJA や日本政策金融公庫等の融資機関としっかり相談し、**償還を含めた計画**を作成しましょう。就農後の収支を具体的に試算することで、あなたがやりたいと考えている経営が本当に**実現可能か**、肉用牛繁殖経営で家族が**生活できるか**、資金は**返済できるか**等をしっかり検討することができます。

通常、子牛出荷収入が安定するまでは返済据置期間が設けられますので、この据置期間の間から**償還金の積み立て**をはじめておきましょう。子牛出荷代金から自動積立にしておく
と安心です。

就農

認定新規就農者となって融資があり、牛舎や牛を取得したら、いよいよ肉用牛繁殖経営のはじまりです。**経営者としての自覚を持ち、良い牛づくりと安定した経営を目指し**よう。





5 就農後について

無事に経営を開始し実際に牛を飼い始めると、多くの課題が出てきます。困ったことがあれば 1 人で悩まずに、就農した地域の先輩農家や、同年代の若手農家、団体や行政機関等へ積極的に相談しましょう。人脈を広げ、たくさんの協力と情報を得ることが経営を良くすることにつながります。

(1) 経営を開始したら

税務署への届出

新たに事業を開始した際や、経営を引き継いだ際には、税務署への届出が必要です。主な届出の内容や期限は下記のとおりです。なお、詳細はお近くの税務署へお問い合わせください。

①個人事業の開業届等

「個人事業の開業・廃業等届出書」、「給与支払事務所等の開設・移転・廃止届出書」を税務署長へ提出します。

〔届出期限〕 その事実のあった日から 1 ヶ月以内

②青色申告承認申請書

「青色申告承認申請書」を税務署長へ提出します。必要に応じて、「青色事業専従者給与に関する届出書」、「源泉所得税の納期の特例の承認に関する申請書」も併せて提出します。

〔届出期限〕

1 月 15 日以前に開業した場合・・・3 月 15 日

1 月 16 日以降に開業した場合・・・開業の日から 2 ヶ月以内

家畜伝染病予防法に基づく家畜保健衛生所への報告

家畜の所有者は、家畜伝染病予防法第 12 条の 4 に基づき、毎年 2 月 1 日時点の飼養状況の報告が義務付けられています。

最新の家畜伝染病発生状況や、飼養衛生管理基準の知識等、肉用牛繁殖農家として適正な衛生管理を行うため、まずは最寄りの家畜保健衛生所へ経営開始を報告しましょう。

💡飼養衛生管理基準について

飼養衛生管理基準は、家畜伝染病予防法に基づき家畜の飼養者が家畜伝染病の発生を予防するために遵守すべき事項について定められたものです。

経営開始後は、家畜保健衛生所等の指導に従い、基準の定める適正な衛生管理を行うよう努めましょう。

死亡家畜の適正処理

不幸にも怪我や病気等により牛が死亡してしまった場合、埋めたり放置したりすることは、たとえ私有地であっても産業廃棄物の不法投棄となり、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に違反してしまいます。万が一牛が死んでしまった場合は、化製場（例熊本蛋白ミール公社等）に搬入し、産業廃棄物として適切に処理しましょう。

地域住民との良好な関係構築

農業は地元地域との関わりが重要な職業です。特に畜産は家畜を扱うため、畜舎環境は常にできるだけ清潔にするよう心掛け、**環境問題トラブルを未然に防ぎましょう**。日頃から近隣住民への心遣いを忘れず、地域行事や清掃活動等に積極的に参加し、**良い関係を構築することが大切**です。

(2) 応用編

少し経営に余裕が出てきたら、以下の項目についても考えてみましょう。

受精卵移植

受精卵移植（Embryo Transfer：ET）とは、優秀な母牛から受精卵を採取し、体外で凍結などの操作を行った後に、別の雌牛に移植することをいいます。乳牛を借り腹として和牛子牛を生産するのが一般的と言われますが、和牛と比べ体格が大きく、泌乳能力が高い交雑種（F1）を借り腹として利用する農家も増えています。

耕畜連携

家畜を飼養するうえで、飼料の確保と堆肥処理は大きな課題です。近隣の耕種農家と交流し、堆肥と稲わらを交換する等の**耕畜連携**に取り組んでみましょう。また、良い堆肥を作ることができれば、堆肥を買い取ってもらえるかもしれません。

スマート農業機器の活用

牛舎と自宅が離れている、または昼間に飼料作や別の仕事等で牛舎から離れることが多い方は、スマート農業機器の導入を検討しましょう。カメラや分娩アラーム等を導入して不在時の事故を減らしたり、発情発見システムや牛群管理システムを活用して成績を向上させたりすることも可能です。

菊池地域には、これらの機器をうまく活用し、自身の経営に活かしている先輩農家がたくさんいます。（参考：P21 菊池の先輩農家事例集）



分娩監視・発情発見機器



カメラ

放牧

放牧を行うことで、堆肥出し等飼養管理の省力化や、飼料費のコスト低減を実現することができます。また、牛に運動させることで足腰が強く健康になり、分娩事故を減らし、耐用年数を伸ばすことも可能です。

ただし、放牧特有の疾病や事故等の危険性もあります。放牧に取り組む際には事前にしっかりと準備し、適切な方法で行いましょう。



阿蘇地域での放牧



牛舎横の運動場



6 菊池地域の経営指標 ～目標とする経営体の姿～

作物名	作 型	規 模	適 応 地 域
肉用牛繁殖	黒毛和種	30 頭	菊池地域

1 経営・技術の特徴(前提条件)

(1)飼養農家の経営類型	繁殖牛（稲WCS コントラクター利用）、人工授精師資格			
(2)全体の経営規模	繁殖牛30頭+稲WCS 契約栽培 収穫作業コントラクター利用 1122a			
(3)対象畜種の飼養規模	繁殖牛30頭 年間 29頭出荷			
(4)家族労働力	1.0人			
(5)出荷・販売方法	家畜市場			
(6)飼養管理技術等の特徴				
ア. 初産月齢	23.5カ月齢			
イ. 分娩間隔	12.5カ月	子牛生産率	96.0%	子牛販売率 94.0%
ウ. 供用産次	7.0産			
エ. 年間更新補充率	13.9%			
オ. 離乳、去勢	人工保育、8週齢離乳、去勢4カ月齢			
カ. 子牛事故率	2%			
キ. 子牛出荷	去勢: 8カ月齢	280kg	雌: 8カ月齢	260kg

2 飼養体系及び飼養管理作業時間

日常管理作業時間		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	日 計
飼料調整	機械作業								0.2								0.2									0.4
飼槽清掃	人力								0.2								0.2									0.4
濃厚飼料給与	人力									0.8								0.8								1.6
粗飼料給与	機械作業								0.2									0.2								0.4
発情発見等繁殖管理	人力										0.5								0.5							1.0
牛舎清掃	人力									0.2									0.2							0.4
放牧管理	人力																									0.0
計		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	1.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	1.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3
年間管理作業		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年 計												
日常管理作業		133	120	132.68	128	133	128	133	133	128	133	128	133	1,562												
敷料交換	ホイルローダー	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24												
放牧関連作業	トラック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0												
出荷	トラック	8		8		8		8		8		8		48												
個体管理	人力	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60												
登録等	人力	4		4		4		4		4		4		24												
ふん尿処理	機械作業	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96												
飼料作	機械作業	0	0	0	87	0	0	0	0	0	0	0	0	87												
記帳管理	人力	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60												
合計		165	140	165	235	165	148	165	153	160	153	160	153	1,961												
													1頭当たり											65.4時間		

3 資本装備と減価償却費

	種類	規模 数量	型式・構造・能力	購入時価格 (A)	法定耐用 年数 (B)	算定耐用 年数 (C)	減価償却費 (A)/(C)	部門負担 (按分)	1頭当たり 減価償却費
建物・施設	牛舎	450㎡	鉄骨スレート	20,250,000	19	29	698,276	100%	23,276
	堆肥舎	174㎡	〃	7,830,000	19	29	270,000	100%	9,000
	飼料・敷料倉庫	100㎡	〃	4,500,000	19	29	155,172	100%	5,172
	農機具格納庫(3戸)	360㎡	〃	16,200,000	19	29	558,621	33%	6,145
	小 計			48,780,000			1,682,069	0%	43593
農機具	トラクター	1台	40ps	4,000,000	7	11	363,636	100%	12,121
	トラック2ト	1台	普通2ト・枠付き	3,000,000	5	8	375,000	100%	12,500
	ホイルローダー	1台	バケット0.3立米	3,500,000	7	11	318,182	100%	10,606
	ロータリー	1/3台	180cm	550,000	7	11	50,000	33%	555
	マニユアスプレッダ	1/3台	2.3ト	1,360,000	7	11	123,636	33%	1,372
	ブラウ	1/3台	1連	425,000	7	11	38,636	33%	429
	ペールグラブ	1台	130cm	375,000	7	11	34,091	100%	1,136
	小 計			13,210,000			1,303,182		38,720
大動物	繁殖牛	30頭	黒毛和種	19,500,000	6	7.2	2,708,333	1.00	90,278
	小 計			19,500,000			2,708,333		90,278
合 計				81,490,000			5,693,584		172,591

4 生産販売・経営指標(成雌牛1頭当たり)

[生産販売]

単位:円, 頭

項	目	数量・金額	算 出 基 礎 等
肉用牛繁殖 (黒毛和種)	生産量	96%	分娩間隔12.5ヵ月
	販売量	94%	販売率 94%
	単価 (子牛価格)	650,000	
販売金額	主産物	611,000	0.94頭×650,000円
	副産物等		
農業総収入	計	611,000	
農業粗収益(販売経費差引後)		582,739	
手取り単価		607,020	

[費 用]

費 目	金 額(円)	算 出 基 礎 等
種苗費	0	
肥料費	0	
素畜費・種付費	8,640	精液代、種付けは人工授精師資格により自身で実施
飼料費	159,111	
農薬・衛生費	17,000	獣医師料及び医薬品費
動力光熱費	5,700	光熱水料及び動力料
諸材料費・敷料費	5,200	敷料費及びその他諸材料費、放牧資材費
小農具費・作業衣料費	1,880	小農具ほか
賃借料・料金	21,083	登録料金、削蹄料金、コントラクター委託費
物件税・租税公課	7,000	物件費及び公課諸負担
保険共済費	16,508	農業共済掛け金
土地改良水利費	0	
修繕費	24,295	建物1%、農機具3%
減価償却費	172,591	
建物・施設	43,593	牛舎、堆肥舎、倉庫
農機具	38,720	トラクター40ps、ホイロローダ、マニユアスプレッダ、トラック2ト ^ン ほか
大動物	90,278	繁殖牛育成価 @650,000円/頭 耐用年数7.2年
生産管理機器	0	
生産管理費	1,833	パソコン、ファックス 等
物財費計	440,841	
労働費	71,598	
雇用労働費	0	
家族労働見積額	71,598	73.4時間 @975円
費用計	512,439	
副産物価格差引生産費	512,439	
支払い利子	9,769	借入資本50%、利率1.6%
支払い地代	0	
支払利子・支払地代算入生産費	522,208	
自己資本利子	11,448	自己資本50%、利率1.6%
自作地地代	7,333	
全算入生産費	540,989	
販売費及び 一般管理費	選果出荷経費	766 入場料315円/頭、積立金500円/頭
	運賃	0
	手数料	27,495 家畜市場 4.5%
	一般管理費	0
計	28,261	

[経営指標]

単位:円, %, hr

農業経営費(販売費及び一般管理費含む)	478,871	子牛1頭当たり全算入生産費(円/頭)	563,530
農業所得(繁殖牛1頭あたり)	132,129	子牛1頭当たり生産・販売費(円/頭)	592,969
農業所得率(対農業総収入所得率)	23 (22)	労働時間	65.4
1日当たり農業所得	14,401	うち家族労働時間	73.4
1日当たり家族労働報酬	12,354	うち雇用労働時間(ヘルパー)	0.0

作物名	作 型	規 模	適 応 地 域
肉用牛繁殖	黒毛和種	80 頭	菊池地域

1 経営・技術の特徴(前提条件)

(1)飼養農家の経営類型	繁殖牛（稲WCS コントラクター利用）			
(2)全体の経営規模	繁殖牛80頭+稲WCS 契約栽培 収穫作業コントラクター利用 2080			
(3)対象畜種の飼養規模	繁殖牛80頭 年間 77頭出荷			
(4)家族労働力	2.0人			
(5)出荷・販売方法	家畜市場			
(6)飼養管理技術等の特徴	ヘルパー利用 603時間			
ア. 初産月齢	23.5カ月齢			
イ. 分娩間隔	12.5カ月	子牛生産率	96.0%	子牛販売率 94.0%
ウ. 供用産次	7.0産			
エ. 年間更新補充率	13.9%			
オ. 離乳、去勢	人工保育、8週齢離乳、去勢4カ月齢			
カ. 子牛事故率	2%			
キ. 子牛出荷	去勢: 8カ月齢 280kg	雌: 8カ月齢	260kg	

2 飼養体系及び飼養管理作業時間

日常管理作業時間		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	日 計
飼料調整	機械作業								1.0								1.0									2.0
飼槽清掃	人力								1.0								1.0									2.0
濃厚飼料給与	人力									1.0								1.0								2.0
粗飼料給与	機械作業									1.0								1.0								2.0
発情発見等繁殖管理	人力										1.0								1.0							2.0
牛舎清掃	人力										1.0								1.0							2.0
計		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0
年間管理作業		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年 計												
日常管理作業		372	336	372	360	372	360	372	372	360	372	360	372	4,380												
敷料交換	ホイルローダー	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	121												
放牧監視作業						0	0	0	0	0	0	0	0	0												
放牧牛運搬等	トラック					0	0	0	0	0	0	0	0	0												
出荷	トラック	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96												
個体管理	人力	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120												
登録等	人力	4		4		4		4		4		4		24												
ふん尿処理	機械作業	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	113												
飼料作	機械作業	0	0	0	160	0	0	0	0	0	0	0	0	160												
記帳管理	人力	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60												
合計		418	378	418	563	418	402	418	414	406	414	406	414	5,074												
																							1頭当たり	63.4時間		

3 資本装備と減価償却費

	種類	規模 数量	型式・構造・能力	購入時価格 (A)	法定耐用 年数 (B)	算定耐用 年数 (C)	減価償却費 (A)/(C)	部門負担 (按分)	1頭当たり 減価償却費
建物・施設	牛舎	1,200㎡	鉄骨スレート	54,000,000	19	29	1,862,069	100%	23,276
	堆肥舎	291㎡	〃	13,115,250	19	29	452,250	100%	5,653
	飼料・敷料倉庫	120㎡	〃	5,400,000	19	29	186,207	100%	2,328
	農機具格納庫(3戸)	360㎡	〃	16,200,000	19	29	558,621	33%	2,304
	小 計			88,715,250			3,059,147	0%	33561
農機具	トラクター	1台	40ps	4,000,000	7	11	363,636	91%	4,132
	トラック2ト	1台	普通2ト・枠付き	3,000,000	5	8	375,000	91%	4,261
	ホイルローダー	1台	バケット0.7立米	4,200,000	7	11	381,818	100%	4,773
	ロータリー	1/3台	180cm	550,000	7	11	50,000	33%	208
	マニユアスプレッダ	1/3台	2.3ト	1,360,000	7	11	123,636	33%	515
	プラウ	1/3台	1連	425,000	7	11	38,636	33%	161
	ペールグラブ	1台	130cm	375,000	7	11	34,091	100%	426
	ほ乳ロボット	1台	2乳頭タイプ	3,000,000	7	11	272,727	100%	3,409
小 計				16,910,000			1,639,545		17,885
大動物	繁殖牛	80頭	黒毛和種	52,000,000	6	7.2	7,222,222	1.00	90,278
	小 計			52,000,000			7,222,222		90,278
合 計				157,625,250			11,920,914		0

4 生産販売・経営指標(成雌牛1頭当たり)

[生産販売]

単位:円, 頭

項	目	数量・金額	算 出 基 礎 等
肉用牛繁殖 (黒毛和種)	生産量	96%	分娩間隔12.5ヵ月
	販売量	94%	販売率 94%
	単価 (子牛価格)	650,000	
販売金額	主産物	611,000	0.94頭×650,000円
	副産物等		
農業総収入	計	611,000	
農業粗収益(販売経費差引後)		582,739	
手取り単価		607,020	

[費 用]

費 目	金 額(円)	算 出 基 礎 等
種苗費	0	
肥料費	0	
素畜費・種付費	18,240	精液代、種付け料
飼料費	159,111	
農業・衛生費	17,000	獣医師料及び医薬品費
動力光熱費	7,228	光熱水料及び動力料
諸材料費・敷料費	5,200	敷料費及びその他諸材料費
小農具費・作業衣料費	1,880	小農具ほか
賃借料・料金	38,000	登録料金、削蹄料金、コントラクター委託費
物件税・租税公課	7,000	物件費及び公課諸負担
保険共済費	16,508	農業共済掛け金
土地改良水利費	0	
修繕費	15,251	建物1%、農機具3%
減価償却費	141,724	
建物・施設	33,561	牛舎、堆肥舎、倉庫
農機具	17,885	トラクター40ps、ホイルローダ、マニユアスプレッダ、トラック2トンほか
大動物	90,278	繁殖牛育成価 @650,000円/頭 耐用年数7.2年
生産管理機器	0	
生産管理費	1,000	パソコン、ファックス 等
物財費計	428,142	
労働費	60,219	
雇用労働費	5,729	
家族労働見積額	54,490	55.9時間 @975円
費用計	488,360	
副産物価格差引生産費	488,360	
支払い利子	7,795	借入資本50%、利率1.6%
支払い地代	0	
支払利子・支払地代算入生産費	496,155	
自己資本利子	9,497	自己資本50%、利率1.6%
自作地地代	2,750	
全算入生産費	508,403	
販売費及び 一般管理費	選果出荷経費	766 入場料315円/頭、積立金500円/頭
	運賃	0
	手数料	27,495 家畜市場 4.5%
	一般管理費	0
計		28,261

[経営指標]

単位:円, %, hr

農業経営費(販売費及び一般管理費含む)	469,926	子牛1頭当たり全算入生産費(円/頭)	529,586
農業所得(繁殖牛1頭あたり)	141,074	子牛1頭当たり生産・販売費(円/頭)	559,025
農業所得率(対農業総収入所得率)	24 (23)	労働時間	63.4
1日当たり農業所得	20,189	うち家族労働時間	55.9
1日当たり家族労働報酬	18,437	うち雇用労働時間(ヘルパー)	7.5



7 菊池の先輩農家事例集

- 事例① 畜産クラスター事業を活用した規模拡大事例・・・・・・・・・・P22
- 事例② ICT 機器や最新技術の優良活用事例・・・・・・・・・・P26
- 事例③ 自給飼料や TMR を活用した低コスト経営事例・・・・・・・・・・P31
- 事例④ クラスター事業を活用した新規就農事例・・・・・・・・・・P36
- 事例⑤ 大規模空き牛舎を活用した新規就農事例・・・・・・・・・・P40
- 事例⑥ 夫婦二人で建てた牛舎新設就農事例・・・・・・・・・・P44
- 事例⑦ 非農家出身 親戚の牛舎を活用した新規就農事例・・・・・・・・・・P48
- 事例⑧ 非農家出身 優良経営の第3者継承事例・・・・・・・・・・P51

事例①【畜産クラスター事業を活用した規模拡大事例】

家族構成：父、母、本人（経営主）

就農年度：平成 25 年度（就農 8 年目）

農業従事者数：1 人

現在の経営規模：経産牛 54 頭、育成 4 頭

飼料作物：イタリアン 5ha（父と共同）

WCS、稲わら、麦わら全 100ha 程度（周辺農家 4 戸と共同）

【概要】

元々は父の肥育経営を継ぐつもりだったが、素牛価格の高騰を受け繁殖部門での独立就農を決意。就農当初は父の肥育牛舎を名義変更して小規模経営を行っていたが、3 年後に畜産クラスター事業を活用して新たに牛舎を建設し規模拡大。

1. 経歴

年齢	15	18	20	21	23	24	25	29
	高校入学	農業大学校入学	農業大学校卒業	実家（肥育）で 1 年程度バイト 就農計画作成、認定	繁殖経営として独立就農	畜産クラスター事業による規模拡大を計画 青年等就農計画作成、認定	繁殖牛舎完成（畜産クラスター事業） 畜産クラスター事業で繁殖牛 4 5 頭導入	現在
高校卒業後に実家で就農するつもりでしたが、先生に農大進学を進められました				事業の関係で卒業後 1 年以内に就農する必要がありました				

2. 農業教育・研修等の経験

就学・就職先	内容	期間
農業大学校	畜産全般	H23.4 ～H25.3
実家の牧場	飼養管理全般（肥育）	H25.4 ～H26.3

3. 設備投資等

内容	金額(税込)	購入元	制度資金・補助事業等
ボブキャット、パールグラブ	2,250千円	中古	畜産クラスター事業
繁殖牛舎（1棟726㎡）	33,771千円	新築	畜産クラスター事業 近代化資金
繁殖牛（45頭）	35,354千円	家畜市場	畜産クラスター事業 青年等就農資金
運転資金			青年等就農資金
経費合計	71,375千円		うち補助金23,509千円

4. 経営の概要

飼料

父と一緒に自給飼料生産組織に加入し、**稲 WCS 等を 100ha 以上**収穫しています。また、果実連のミカン粕、ニンジン粕を無料で持ってきてもらうため、それらをミキサーで粗飼料と混ぜて給与しています。濃厚飼料は粗飼料のあと、別に 1.5 kg/頭程給与しています。母牛の給餌は夕方 1 回のみです。

繁殖、種付け

人工授精は授精師に頼んでいます。就農して最初の 10 ヶ月くらいは自分でつけていたのですが、受胎率が悪くて頼むことにしました。



堆肥処理

畑に散布したり、稲わらと交換したり、戻し堆肥にしたりしています。

労働力

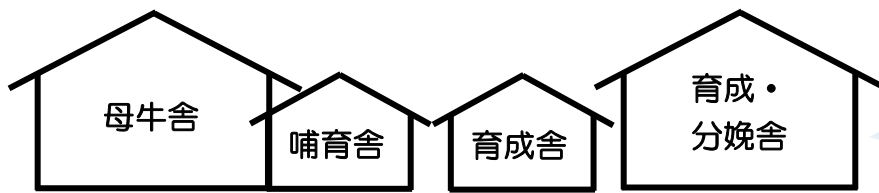
労働力は基本的に自分 1 人なので休みはありませんが、自宅と父の牛舎が同じ敷地にあるため、お互い助け合っています。

スマート農業

畜産クラスター事業で牛舎を建てた翌年に、**牛温恵**を導入しました。夜分娩の時はとても助かっています。体内に入れるため牛の体に負担があり、内膜炎をおこしたり、入れ方が浅いと出てきたりするため、分娩予定日から入れています。また、カメラを分娩舎に 2 台、子牛・哺乳ロボのところに 1 台設置しています。

R2 年 6 月から **U-motion** を導入しました。母牛舎に 1 台設置しており、発情発見にのみ使っています。

5. 施設



最初の牛舎は父の肥育牛舎を名義変更して引き継ぎました



畜産クラスター事業で建てた鉄骨造の母牛舎です。奥に哺乳ロボットと子牛の部屋があります。

6. 就農後の牛の動き

		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
経産牛	期首飼養頭数			4頭	12頭	15頭
	期中	廃用・事故			2頭	
		育成牛から繰り入れ	4頭	3頭	2頭	12頭
		外部から導入		4頭		
	期末飼養頭数		4頭	11頭	12頭	27頭
育成牛	期首飼養頭数		10頭	6頭	7頭	37頭
	期中	子牛から繰り入れ				
		外部から購入			37頭	6頭
		外部へ販売			2頭	
		経産牛へ繰り入れ	4頭	3頭	2頭	12頭
		淘汰・へい死				
	期末飼養頭数		6頭	3頭	40頭	31頭
出生子牛	出生		4頭	7頭	10頭	24頭
	雌子牛の保留					
	事故等					
	外部へ販売				24頭	25頭

7. こだわり、気を付けていること

✦ 寒い時期に風邪をひかせないように気を付けています

子牛にはカーフジャケットを着せたりヒーターを設置したりしています



8. 就農して苦労したこと

最初のころは自分で人工授精をしていたこともあってなかなか種がつかず、回転が悪かったので大変でした。また、たまに夜中分娩があるのが辛いです。



管理板は、家族に手伝ってもらう時などに誰でも見やすいようにきれいに整理しています



9. 就農前に必要だと思うことやアドバイス

✦ 就農時は素牛が40万円程で安かったため、たくさん買っておけばよかったと後悔しています。今の素牛価格は高いですが、**将来の相場見極め**は大事だと思います。

✦ 自分は農大や実家の農場以外に研修に行くことはなかったですが、**マイナスにはならないので行っておいた方が良いでしょう**と思います。

10. 新規就農を目指す方へメッセージ

良い牛ができるようにがんばってください！！



事例②【ICT機器や最新技術の優良活用事例】

家族構成：夫（経営主）、妻、子 4 人
就農年度：平成 26 年度（就農 7 年目）
農業従事者数：4 人
現在の経営規模：経産牛 100 頭



【概要】

実家の繁殖経営は弟が継承するため、自身は農業団体に就職。仕事で畜産に関わる中でやはり就農したいと思い、団体退職後に大規模畜産農家に就職。2 年半の勤務後、空き牛舎を借りて独立就農。地域の若手農家や研修時代の知り合い等を通じて情報収集を行い、AI カメラの試験や小国地域酪農家との連携によるジャージー×黒毛和種を借り腹にした受精卵移植等、さまざまな取り組みを行う。

1. 経歴

年齢		20				25				27					30		34		35	
		農業大学校卒業	農業団体へ就職			就農を考え始める	農業団体を退職	H牧場へ就職		就農計画作成、認定	融資借り入れ	空き牛舎を借りて就農（農場①）		空き牛舎・堆肥舎を借りる（農場②）	農大生のバイトを受け入れ始める		法人化	離農農家から農場③を購入	現在	
当時は就農するつもりはありませんでした						ここでたくさん のことを学ばせてもらい、人脈も広がりました！									農大生の正式雇用をきっかけに、就業体制の整理や福利厚生の充実を目指し法人化しました					

2. 農業教育・研修等の経験

就学・就職先	内容	期間
農業大学校	畜産全般	H17.4 ～H19.3
畜産関係団体	畜産技術・生産指導	H19.4 ～H24.3
H牧場	子牛担当（哺乳後から出荷まで） その他分娩対応等	H24.7 ～H26.

3. 設備投資等

内容	金額(税込)	購入元	制度資金・補助事業等
繁殖素牛（42頭）	21,710千円	家畜市場	就農支援資金
牛舎（賃借）	360千円	離農農家	就農支援資金
牛舎修繕、資材費	1,030千円		就農支援資金
家畜運搬トラック（4 t）	1,000千円		就農支援資金
運転資金	3,860千円		就農支援資金
経費合計	27,960千円		

4. 経営の概要

飼料

父の収穫作業を手伝う代わりに、半額で牧草ロールを購入しています。粗飼料は不足しており、阿蘇や天草、大牟田等各地からなんとか確保している状態です。

就農3年目頃から阿蘇での放牧を始めましたが、退牧後に死んでしまったことが4度あり、最近は数を減らしています。

繁殖、種付け

人工授精と受精卵移植が半々程度で、すべて授精師に依頼しています。受精卵移植は自農場で採卵し、凍結するか、タイミングが合えば同期化して生で付けています。受精卵は新鮮卵だと5～6割は付きます。受精卵がなかなか止まらない牛は、一度AIで分娩させると改善しやすいです。

💡 借り腹牛について

就農3年目になって、借り腹用に9ヵ月齢の育成牛F1を15～16頭購入しました。ただ、育成牛は肥育向けに育成してあるためか大きく育っており、子宮の状態が良好でない牛が多かったです。一度も出産せず、そのまま出荷した牛もありました。

少し手間はかかりますが、借り腹として買うなら又し子が良いと思います。

現在はHB（ホルスタイン×黒）を10頭弱、JB（ジャージー×黒）を20頭強飼っています。JBは小国のジャージー農家から生後1週間の子牛を購入しています。HBよりも受胎率が高いですが、餌を食べる量は多いです。

JBの見た目は黒とあまり変わりませんが、背中に茶色い線があります



子牛は少しジャージーっぽさが残っています

堆肥処理

就農直後は牛舎横の堆肥舎を近隣農家と共同利用していましたが、現在は離農農家から別の堆肥舎を借り、生産した堆肥は JA 堆肥センターへ搬入しています。

労働力

就農後しばらくは 1 人で管理していたため、休日はありませんでした。3 年目から農大生のバイトを 3 名受け入れ、卒業後も「ここで働きたい」と言われ、そのまま雇用しています。自農場だけでは雇えないため、技術指導という形で近隣農家のヘルプに行ってもらっています。

スマート農業

3 年前に U-motion を 70 本導入しました。毎朝作業前に、スマホで牛の状態を確認するのが日課です。尾に括り付けて上下運動を感知する分娩センサーも試験的に導入しています。

カメラは 4 年前に購入し、分娩房へ設置しています。分娩や発情兆候を検知する AI カメラの実証試験にも協力しています。

カメラ



U-motion センサーを装着した牛



5. 施設

農場①

親戚のツテで空き牛舎を賃借しました
1 年目のみ 3 万円/月
2 年目以降は 5 万円/月

農場②

元酪農牛舎と
堆肥舎を賃借
最大 10 頭程

農場③

今年の夏に離農農家
から賃借
今後購入予定です
最大 40 頭程

母牛舎

母牛舎

育成舎

哺育舎



6. 就農後の牛の動き

		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
経産牛B	期首飼養頭数		19頭	27頭	27頭	23頭
	期中	廃用・事故			4頭	
		育成牛から繰り入れ				12頭
		外部から導入	19頭			
	期末飼養頭数	19頭	27頭	27頭	23頭	35頭
経産牛F1	期首飼養頭数			2頭	3頭	13頭
	期中	廃用・事故				
		育成牛から繰り入れ		1頭	10頭	7頭
		外部から導入				
	期末飼養頭数		2頭	3頭	13頭	20頭
育成牛	期首飼養頭数		4頭	9頭	17頭	20頭
	期中	子牛から繰り入れ				
		外部から購入	4頭	12頭	9頭	29頭
		外部へ販売				
		経産牛へ繰り入れ		8頭	10頭	19頭
		淘汰・へい死				
	期末飼養頭数	4頭	8頭	17頭	20頭	30頭
出生子牛	出生	1頭	32頭	30頭	35頭	46頭
	雌子牛の保留					
	事故等					
	外部へ販売		17頭	25頭	22頭	35頭

7. こだわり、気を付けていること

🔧 「1年1産」とにかく産ませること

🔧 いろんな人にどんどん話を聞いて良い情報を得ること

8. 就農して苦労したこと

分娩が一気に増えてきた時期は、哺乳がとても大変でした。もう少しゆっくり増頭すればよかったと思います。R2年に哺乳ロボットを入れてだいぶ楽になりました。必要な施設は事前にちゃんと準備してから増やすべきだと思います。

9. 就農前に必要だと思うことやアドバイス

- ✦ 情報収集はとても重要です。そのためには**コミュニケーション能力**が大事だと思います。良い種雄牛や新しい技術、空き牛舎等の情報、機械の整備や車検を安くしてくれる業者、運送業者等、**いろんなツテはすべて「人」から入ってきます**。自分は畜産農家に勤めていた時に、毎週家畜市場に行って仲間を増やしました。
- ✦ 堆肥舎等の共同利用はやめた方が良いでしょう。就農時は資金がなく、設備投資はできるだけ少なくしたいと思いますが、共同利用相手とのパワーバランスが崩れたとき、トラブルになる可能性があります。どうしてもやるなら、事前にきちんと契約を結ぶべきだと思います。

10. 新規就農を目指す方へメッセージ

その時その時で満足せず、常に上を目指し、探求心を持って頑張ってください。
がむしゃらにやるのも良いですが、体が資本なので体調管理は忘れずに！



事例③【自給飼料や TMR を活用した低コスト経営事例】

家族構成：夫（経営主）、妻、子3人

就農年度：平成27年度（就農6年目）

農業従事者数：1人

現在の経営規模：繁殖牛70頭

飼料作物：トウモロコシ8ha、稲 WCS3ha、稲わら 20ha

【概要】

実家の繁殖経営は継がず全く別の業種へ就職したが、父の怪我をきっかけに農業を手伝いはじめ、新規就農支援制度を活用して就農。私有地の木材を使用して簡易牛舎を建設し、少しずつ面積を拡大していった自給飼料や TMR をうまく活用して低コストな経営を行う。

1. 経歴

年齢		20			26			30		32					34		36		38	
		工業系専門学校卒業	鉄工所へ就職		結婚			父の怪我をきっかけに実家の手伝い		就農計画作成、認定	簡易牛舎事業を使い母牛舎2棟建設	父と別経営で就農		父から土地を買い取り	放牧開始		TMR給与開始		現在	
もともと実家を継ぐ気はまったくありませんでした										就農後5年以内に買い取る計画でした										

2. 農業教育・研修等の経験

就学・就職先	内容	期間
実家の牧場	飼養管理、哺育育成管理、繁殖管理、自給飼料収集作業等	H25.8 ～H27.5

3. 設備投資等

内容	金額(税込)	購入元	制度資金・補助事業等
母牛舎	14,190千円	新築	肉用牛経営安定対策補完事業
土地	2,100千円	父	経営体育成強化資金
ミルメーカー	1,032千円		青年等就農資金
繁殖素牛25頭	17,500千円	家畜市場	青年等就農資金
経費合計	34,822千円		うち補助金6,450千円

4. 経営の概要

飼料

自給飼料用の畑は、就農前から少しずつ知り合いや父のツテで広げていきました。また、大津町のTMRセンターから、400 kg（10 kg×40 頭分）の繁殖牛用TMRを週に8個購入しています。粗飼料確保が難しいご時世ですが、餌に困らなくて済みます。

阿蘇地域での放牧も行っていますが、常に事故の不安があります。餌代や作業時間は減りますが、運送費等の出費もあるにはあります。放牧牛の導入事業に釣られて安易に飛びつくのはやめたほうが良いと思います。

母牛の餌やりは、夕方1回のみです。飼料作で日中外に出ていることが多いため昼間分娩のメリットがあまりなく、本当は2回やりたいと思っています。

堆肥処理

父親を含む4戸で共同堆肥舎を利用しています。堆肥はすべて畑に散布しています。堆肥を継続的に利用してくれる耕種農家を確保しておくの良いのではないのでしょうか。

育成

自家育成はほとんど行っていません。外で仕上げてもらった牛の方が、自分で育てるより良く育つと思います。

繁殖、種付け

昨年から少しずつ自分で人工授精を始めたところ、受精率が悪くなってしまいました。受精卵移植はすべて授精師に依頼しています。

TMR



休日

ヘルパーに来てもらい、多くて月2日程休みをとります。ただ、病気が出ているような場所には行けないですし、出かけるのにも気を使います。

若手繁殖農家グループ

20名弱の若手繁殖農家グループに入っています。採卵用の良い雌牛を購入した際などに、卵のやりとりや供給、情報交換等を行っています。様々な経営の繁殖農家が集まっており、多くの情報を得ることができるのでとてもありがたいです。

スマート農業機器

カメラは入れたほうが良いと思います。防犯用のものを3台使っていますが、分娩が始まったときに遠くにいても少し安心できます。

また、知り合いの農家から紹介され、U-motionも導入しています。共同購入で少し安く購入できましたが、発情見逃しも稀にありますし、機械に頼りすぎず、牛舎にいる時は目を見たほうが良いです。牛温恵も使っていましたが、牛のストレスになるうえ、早産や子牛にからむ事故もあったので今は使用していません。



5. 施設



私有地の木を森林組合の人に切ってもらい、知人の大工に頼んで安価で建ててもらいました（牛舎のみ1,200万円程度）。



6. 就農後の牛の動き

		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
経産牛	期首飼養頭数		12頭	37頭	52頭	55頭
	期中	廃用・事故			2頭	2頭
		育成牛から繰り入れ	12頭	25頭	15頭	5頭
		外部から導入				
	期末飼養頭数	12頭	37頭	52頭	55頭	58頭
育成牛	期首飼養頭数	9頭	20頭	22頭	10頭	8頭
	期中	子牛から繰り入れ				
		外部から購入	23頭	27頭	3頭	3頭
		経産牛へ繰り入れ	12頭	25頭	15頭	5頭
		淘汰・へい死				
	期末飼養頭数	20頭	22頭	10頭	8頭	6頭
出生子牛	出生	5頭	24頭	40頭	42頭	44頭
	雌子牛の保留					
	事故等					
	外部へ販売		4頭	26頭	28頭	25頭

7. こだわり、気を付けていること

✦ 信頼できる情報をつかむこと

✦ ミルクや添加剤等は成分量から検討し、使いながら試行錯誤する

8. 就農して苦労したこと

獣医師の選定に苦労しました。最初は父と同じ獣医師にそのまま頼んでいたのですが、夜間対応ができない方だったので…。途中で変えるのもなかなか難しかったです。また、妻や子どもがきつかったと思います。自分は家が農家なので慣れていますが、県外への旅行等は行けないし、少しかわいそうでした。

9. 就農前に必要だと思うことやアドバイス

- ✦ 自分は困らなかったですが、これから始める人は**粗飼料の確保**が大変だと思います。今はみんな粗飼料を取り合っています。今後ハイキューブやチモシーは入ってこなくなるようですし、買い餌の人は苦労すると思います。
- ✦ **獣医師、人工授精師、削蹄師等は早いうちから探して確保**しておいた方が良いでしょう。他にも、運送屋とか、安く良い物を供給してくれる添加剤屋とか…。経営を始めると営業がよく来るようになりますが、どれが本当に良いのか、信頼していいのかの判断が難しいです。
- ✦ **確定申告**も自分でやらないといけません。家族でできる人がいれば良いですが、誰もできないのであれば**税理士**も確保する必要があります。
- ✦ 農家は付き合いが大事です。JA、地域、関係業者の接待、若手グループ等飲み会も多いため家族、**特に妻の理解**が必要です。

10. 新規就農を目指す方へメッセージ

繁殖経営は勢いだけでできるものではありません。本当にしっかり考えてからはじめた方が良いでしょう。お金を使いすぎる人ももちろんダメ。稼いでいる人ほど、とても辛抱しています。牛舎にずっと入り浸ることができる人じゃないとやっていけません。また、内気だとやっていくのは難しいと思います。どんどん積極的に交流し、信頼できる人を作るのが一番です。



事例④【畜産クラスター事業を活用した新規就農事例】

家族構成：夫（経営主）、妻、子2人

就農年度：平成 28 年度（就農 5 年目）

農業従事者数：2人

現在の経営規模：経産牛 65 頭、育成牛 15 頭



【概要】

実家の肥育経営を兄が継承するため、家族と相談し、自身は繁殖部門として別経営で独立就農。就農直後に熊本地震があったが、畜産クラスター事業を活用し、実家近くに80頭規模の牛舎を建設。夫婦で経営。今後150頭程度まで増頭を目指す。

1. 經歷

年齢				18	19	20				21		22		23				26			
		父の肥育経営を継ぐことを考え始める		農業大学校入学	A牧場で研修	農業大学校卒業	家の手伝いをしながらN牧場でバイト	兄が熊本地震を機に帰郷	独立就農を決意、関係機関へ相談	就農計画認定、融資借り入れ	実家農場横の土地を購入	畜産クラスター事業を活用し繁殖牛舎建設 畜産クラスター事業を活用し素牛45頭導入		就農計画変更、融資借り入れ	哺育舎、育成舎を建設			現在			
				この時お世話になった人とは 今も連絡を取っています											子牛が増えてきてから 哺育舎・育成舎が 必要なことに 気付きました						

2. 農業教育・研修等の経験

就学・就職先	内容	期間
農業大学校	畜産全般	H26.4 ～H28.3
A牧場	飼養管理全般	H27 1ヶ月程度
N牧場	飼養管理、繁殖管理、育成管理	H28.4 ～H30.3

3. 設備投資等

内容	金額(税込)	購入元	制度資金・補助事業等
繁殖牛舎(鉄骨造・80頭規模)	32,454千円	新設	畜産クラスター事業 近代化資金
繁殖牛(45頭)	44,492千円	家畜市場	畜産クラスター事業
育成牛舎	17,000千円	新設	青年等就農資金
哺育牛舎	8,000千円	新設	青年等就農資金
運転資金等	25,000千円		青年等就農資金
計	126,946千円		うち補助金22,502千円

4. 経営の概要

飼料

父が耕畜連携(稲わらと堆肥の交換)を行っているため、その稲わらと大津の麦わらを使用しています。以前は稲 WCS 等を購入していましたが、粗飼料の確保が難しくなってきたため、昨年はわらのみ与えたところ成績が悪化してしまいました。今は粗飼料確保が課題で、来年は飼料作用機械の購入と稲 WCS の安定確保を目指しています。

堆肥と交換する稲わら



堆肥処理

父と共用の堆肥舎で、肥育分と混ぜて堆肥化しています。すべて稲わらとの交換です。

繁殖

人工授精は共済の獣医師に依頼しており、大体 4~5 回で付きます。毎月共済の繁殖検診を受けており、検診の結果次第で治療や人工授精を行ってもらいます。

休日

就農してからは 1 日も休んでいません。早朝や深夜の餌やりは牛へ負担がかかるため、遠出も控えています。

牛舎横の自宅

住居

牛舎の横に自宅(管理小屋)を建設したため、カメラ等のスマート農業機器は使っていません。朝夕の管理に加えて夜間の見回りや、分娩前は 2 時間に 1 回程度の見回りを行っています。



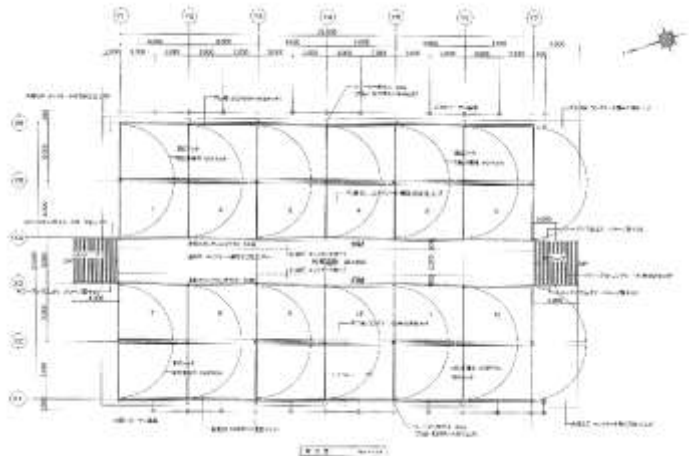
5. 施設・機械



母牛舎（鉄骨造 864 m²）は畜産クラスター事業を活用して建設しました。補助事業で建設したため作りがしっかりしていますが金額は高めです。



牛舎平面図



6. 就農後の牛の動き

		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
経産牛	期首飼養頭数			42頭	49頭	56頭
	期中	廃用・事故		2頭		2頭
		育成牛から繰り入れ	41頭	9頭	7頭	4頭
		外部から導入				
	期末飼養頭数		41頭	49頭	56頭	58頭
育成牛	期首飼養頭数		44頭	10頭	5頭	8頭
	期中	子牛から繰り入れ			1頭	10頭
		外部から購入	44頭	7頭	10頭	6頭
		外部へ販売		2頭	1頭	
		経産牛へ繰り入れ		9頭	7頭	4頭
		淘汰・へい死				
	期末飼養頭数	44頭	10頭	5頭	8頭	20頭
出生子牛	出生		42頭	47頭	52頭	50頭
	雌子牛の保留					
	事故等		2頭	3頭	7頭	5頭
	外部へ販売	24頭	25頭	36頭	44頭	35頭

7. こだわり、気を付けていること

- ✦ 昨年、親牛の餌で成績に悪影響が出たため、親牛の管理は特に気を付けています。丈夫でよく太る子牛を産んでもらうためには、親牛の管理が不可欠だとわかったので、良質な餌を確保して親牛の健康管理に気を付けるようにしています。

細かく書き込まれた管理版



8. 就農して苦労したこと

- ✦ 初めに運転資金で牛を購入してしまったため、餌代の確保に非常に苦労しました。月 15 万円程度のバイト代でなんとか賄っていましたが、餌代がこんなにかかるとは予想しておらず、実家暮らしでなかったら生活できていなかったと思います。ちょうど生活費がなくなった頃に子牛が出始め、収入が入るようになりました。
- ✦ 就農計画は、もっと資金の使用用途等をしっかり考えて作成すればよかったと思っています。哺育・育成舎も最初から建てておけばよかったです。

清潔な育成舎



9. 就農前に必要だと思うことやアドバイス

- ✦ 研修は家の牧場ではなく、他所でやったほうが良いと思います。全く未経験の人であれば半年から 1 年、農大や畜産農家で経験を積んだ人であれば 1 か月程度でも良いかもしれません。1 年間研修すると、年間の流れや大抵のことがわかるようになります。

10. 新規就農を目指す方へメッセージ

生活基盤や貯金が十分にあるなら良いですが、就農して最初の 2 年くらいはとても大変です。相談できる人が 1 人でもいると良いと思います。知り合いはたくさんいたほうが良いので、付き合いは大事にしましょう。困っている時に助けてくれたり、中古の機械を安く譲ってくれたりします。



家族構成：夫（経営主）、妻、子 4 人
就農年度：平成 30 年度（就農 3 年目）
農業従事者数：2 人
現在の経営規模：経産牛 101 頭、育成牛 10 頭
飼料作物：イタリアン 6ha、イネ WCS10～12ha

【概要】

農業高校・農大卒業後、県内外の畜産農家で 2 年程研修し、実家（肥育）にて就農。相場変動により繁殖部門の必要性を感じ、離農農家の牛や牛舎をまるごと買い取って独立就農。就農 3 年目にして 100 頭超えの大規模経営を夫婦 2 人で行う。将来は実家の肥育経営も引き継ぎ、一貫経営を目指す。



年 齢			15	18		19				20					28				31	
			父の肥育経営を継ぐことを決意	農業高校入学		T牧場で研修	A牧場で研修	N牧場へ就職		実家に戻り就農（肥育）		繁殖の必要性を感じ空き牛舎搜索開始		継承に向けてJ Aへ融資相談	就農計画作成、融資借り入れ	牛・牛舎一式を継承				現在
						いろんな経験を させてもらい、 人とのつながりも 増えました！										1ヵ月程度移譲者と 一緒に作業して 効率的な作業方法を 教わりました				

就学・就職先	内容	期間
農業高校 農業大学校	畜産全般	H16.4 ～H21.3
T牧場	飼養管理、繁殖管理、育成管理	H21.11 ～H22.6
A牧場	飼養管理、繁殖管理、育成管理	H22.7 ～H22.11
N牧場	飼養管理、繁殖管理（種付）、育成管理、肥育、精肉販売、草地管理	H22.12 ～H24.3

3. 設備投資等

内容	金額(税込)	購入元	制度資金・補助事業等
牛舎(木造・150頭規模)、土地	40,000千円	地元の離農農家	スーパーL資金
繁殖牛(95頭)	59,976千円		JA寄託事業、経営継承事業、近代化資金
雄子牛(40頭)	10,000千円		新規就農応援資金
経費合計	109,976千円		

4. 経営の概要

飼料

父と共同でイタリアンや稲 WCS 等を作っています。量は不足しているため、牧草ロールも追加で購入しています。最近は輸入粗飼料が非常に手に入りやすく、**粗飼料確保が課題**です。餌は、子牛が1日2回、母牛は昼間分娩させるため14時頃に1回与えています。

堆肥処理

JA堆肥センターへ持ち込んでいます。

育成

育成牛も含めて継承しました。就農直後は出荷を優先し、あまり自家育成を残していなかったため、現在は母牛の更新が多くて育成が追いついていない状態です。



繁殖、種付け

AI・ETともに自分で行っています。2～3回目の発情で大抵の牛は問題なく付きます。4回付かなければ少し肥育してから出荷しています。

休日

ヘルパー組合に加入しており、月に3日は母牛と育成牛の給餌作業を依頼しています。ただ、子牛の管理は自分たちで行うので基本的には毎日作業があります。

スマート農業機器

就農して5ヵ月程度で**牛温恵**を導入しました。経産牛は予定日の3日前、未経産は10日前に入れています。カメラは母牛舎に3台設置しています。

また、**U-motion**も導入しており、一見発情兆候が見られない牛も、発情アラームが来て実際に直腸検査で確認してみると発情していることがあり、助かっています。

5. 施設



大規模繁殖経営の先駆者から
引き継いだ牛舎です！

メリット

移譲者が自ら作った牛舎で、1人でも効率よく作業ができるよう考えられています。

牛房が外側に向けて緩い傾斜になっているので、通路側からノコクズを入れていくだけで堆肥出しの手間が少なく済みます。

デメリット

年数が経過しているため修理箇所が多く、今後の修繕費の増加が心配なところです。

6. 就農後の牛の動き

		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
経産牛	期首飼養頭数		64頭	83頭		
	期中					
	廃用・事故	2頭	1頭	4頭		
	育成牛から繰り入れ		20頭	15頭		
	外部から導入	65頭	7頭	5頭		
	外部へ販売		6頭	5頭		
	期末飼養頭数	64頭	83頭	98頭		
育成牛	期首飼養頭数		20頭	15頭		
	期中					
	子牛から繰り入れ		15頭	19頭		
	外部から購入	20頭				
	経産牛へ繰り入れ		20頭	15頭		
	淘汰・へい死					
	期末飼養頭数	20頭	15頭	19頭		
出生子牛	出生	63頭	83頭	86頭		
	雌子牛の保留	15頭	19頭			
	事故等	3頭	1頭	7頭		
	外部へ販売	42頭	62頭	57頭		

7. こだわり、気を付けていること

- ✦ 発情確認とお産を**確実**にすること
- ✦ 子牛の風邪、下痢を防ぐ
- ✦ **母牛同士の相性**を見ながら部屋割りを考える

母牛のストレスは発情や種付きに影響します！



8. 就農して苦労したこと

- ✦ 発情を見つけて、人工授精し、分娩させ、子牛を育てる一連の作業すべてが大変でした。1回の発情見逃しがそのまま損失になってしまうので大きいです。
- ✦ 就農当初は継承した牛群全体を見る余裕がなく、目先の収入を確保するために子牛を多く出荷してしまいました。返済が本格的に始まると、自家育成に回す余裕がなくなるので、もう少し計画的に自家育成をしておけばよかったと後悔しています。

9. 就農前に必要だと思うことやアドバイス

- ✦ 実家を継承するにしても、一度外に出て研修や就職し、**いろんな経営を見て知識を深め、人脈を広げたほうが良い**です。自分の場合、牛が続けて死んだりすると精神的にかなり辛かったため、十分な経験がないまま就農すると死亡事故も増え、挫折することになると思います。

10. 新規就農を目指す方へメッセージ

経営をしていくにあたり、しっかりとした目標を持つことが大切です。ただ繁殖をするだけでは面白みがありません。階段を上るように小さな課題をクリアしていき、日々楽しみながら大きな目標達成を目指しましょう！
菊池地域は同世代の畜産農家が多く、家畜市場等の施設も近くて、とても畜産経営に適した環境だと思います。就農の準備が整ったら、最後は勢いが大事です。ぜひ一緒に農業をやしましょう！



事例⑥【夫婦二人で建てた牛舎新設就農事例】

家族構成：妻（経営主）、夫、子４人
 就農年度：令和２年度（就農１年目）
 農業従事者数：２人
 現在の経営規模：経産牛３８頭、育成牛１２頭
 飼料作物：イタリアン、稲 WCS 等 15～16ha



【概要】

農業高校卒業後、畜産別科へ進学し、22歳の時結婚。天草地域にある夫の実家で繁殖経営の手伝いをしていたが、自分達だけの独立経営を目指し、妻の地元であり利便性も良い大津町へ引っ越し。妻はCBS、夫は削蹄師として働きながら準備を進め、妻の実家近くに土地を購入し、牛舎を新設して就農。

1. 経歴

年齢		18	19	20	21	22			28		30	31				32		33		
		農業高校卒業	畜産別科	家畜改良事業団	畜産試験場	結婚、天草へ移住		夫の実家で繁殖経営の手伝い		独立を目指し大津町へ移住		J A 菊池 C B S	就農計画作成、認定	青年等就農資金を借りて妊娠牛導入	牛舎新設		育成舎新設		現在	
										妻の地元で、市場や畜産関連施設が近くて立地も良いため移住を決めました！										
										妊娠牛は、育児放棄等のリスクも承知の上で購入しました。回転が速くなるのが助かります。										

2. 農業教育・研修等の経験

就学・就職先	内容	期間
農業高校畜産科	畜産全般	H16.4 ～H19.3
家畜改良事業団 畜産試験場	畜産関係業務全般	H19.4 ～H21.3
JA菊池CBS (キャトルブリーダー・インクステーション)	飼養管理、繁殖管理、育成管理	H30.4 ～H31.3

3. 設備投資等

内容	金額(税込)	購入元	制度資金・補助事業等
繁殖牛舎（土地造成等含む）	13,463千円	新設	青年等就農資金
妊娠牛20頭	20,000千円	家畜市場	青年等就農資金
計	33,463千円		

4. 経営の概要

飼料

妻の実家と共同で、イタリアン、稲わら、稲 WCS を 15～16ha 程作っています。また、天草の方にも稲 WCS、稲わらを 12ha 程度、実家から機械を借りて刈り取り作業に行っています。

餌やりは朝夕 2 回行っています。親付けのため、給餌量が少ないと乳量が減ってしまうので、母牛も 2 回給餌です。分娩は夜中が多いですが、昼間は畑に出たり削蹄で出たりするため逆に助かっています。

堆肥処理

実家から機械を借りて、畑に散布しています。

哺育・育成

早期離乳せず、親付けにしています。天草にいた頃は早期離乳していましたが、その頃より下痢は多いですが病気は少ないです。自家育成はしていません。



繁殖、人工授精

人工授精は妻が行っています。個体によりますが、大体 1～3 回で付きます。受胎率は今のところ順調です。

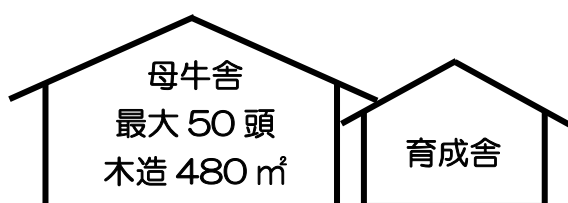
スマート農業機器

牛舎建設直後に離農農家から牛温恵の本体を譲ってもらい、センサーのみ自分で購入しました。農繁期は非常に助かっています。うちは逆子が多いのですが、牛温恵のおかげで迅速に対応することができるようになり、事故が減りました。ただ、分娩 5 日前に入っていますが、長く入れていると分娩時の汚れものが多い気がします。また、子宮の回復も悪く、1 回目の発情は粘液の状態が良くありません。子宮洗浄やイソジンでの消毒をしてもらっています。

牛舎建設から半年後には、西日本防災リースでカメラを導入しました。とても高画質で、2台で牛舎全体が見渡せ、牛舎近くの木に止まっている虫まで見えます。値段は高かったです。牛群管理は [Farmnote](#) のアプリを使用していたが、4月から有料になるためどうするか迷っているところです。アプリの記録漏れ防止も兼ねて、夫は紙に記録しています。



5. 施設・機械



母牛舎

40aの農地を購入し、母牛舎を建設。農地転用に開発許可が必要で、登記代、測量代等、結構な金額がかかりました。また、傾斜地だったので土地造成にもお金がかかりました。



機械

妊娠牛1産後の成牛売買収入でタイヤショベルのみ購入しました。自給飼料関連の機械はすべて両親から借りています。

育成舎

予想していたより一気に頭数が増えたため、あとから育成舎を増設しました。基礎だけやってもらい、建て込みは自分たちで実施しました！



パドック（運動場）や牛舎周辺のコンクリート打ちも、安価な生コンを使ってすべて自分たちでやりました！



6. こだわり、気を付けていること

✦ 絶対に事故をさせないこと。そのために夜 23 時からの 1 時間の見回りは毎日欠かしません。特に妊娠牛にはとても気を使っています。

7. 就農して苦労したこと

資金不足や、経済面できついことはありましたが、やりたいことをやれて、自分達で経営できている喜びが勝っています。

8. 就農前に必要だと思うことやアドバイス

- ✦ 就農するまでにもっと貯金をしておけばよかったと思います。
- ✦ 購入時は素牛価格相場の見極めが重要です。自分の就農時はコロナの影響で価格が下がっていましたが、「このまま価格が上がらなかったら…」という不安もあり、あまり多くは買えませんでした。価格の変動を予測し、安い時にもっと買っておくべきでした。
- ✦ 就農後は、次の年は具体的にいくら稼ぐか、明確な数値目標と計画をしっかりと作るべきだと思います。軌道に乗せるまでの増頭や出荷の計画も、「大体このくらいかなー」と曖昧ではなく、具体的な数字をしっかりと計画することが大切です。

9. 新規就農を目指す方へメッセージ

自分たちも経営を始めたばかりで、まだまだこれからです。これから就農される皆さんとも、いつかお互いに情報交換等ができれば、と思います。一緒に頑張りましょう！



事例⑦【非農家出身 親戚の牛舎を活用した新規就農】

家族構成：夫（経営主）、妻、子1人

就農年度：令和2年度（就農1年目）

農業従事者数：1人

現在の経営規模：経産牛 8 頭、育成牛 22 頭

飼料作物：イタリアン 3ha



【概要】

両親は非農家だが、親戚や近所の畜産農家を見て育ち、高校時代に就農を考え始めた。農業大学校卒業後は半年程度近所の繁殖農家で研修を行い、卒業から約 1 年後に就農。牛舎や機械は無償で借用しており、牛舎 2 階には居住スペースもある。今後 50 頭規模まで増頭を目指す。

1. 經歷

年齢	18	19	20	22						22			
	就農を志し、農業大学校へ入学	A牧場でバイト	農業大学校卒業	J Aへ就農相談	T牧場で研修		就農計画認定	融資借り入れ			酪農牛舎を改装して就農	現在	
		いろんな作業と一緒にさせてもらい、とても勉強になったし貴重な経験ができました！				手続きにこんなに時間がかかるとは思いませんでした。							

2. 農業教育・研修等の経験

就学・就職先	内容	期間
農業大学校	畜産全般	H16.4 ～H19.3
A牧場	飼養管理、繁殖管理、育成管理	R1.8 ～R2.3
T牧場	飼養管理、繁殖管理、育成管理	R2.8 ～R3.3

3. 設備投資等

内容	金額(税込)	購入元	制度資金・補助事業等
牛舎3棟、堆肥舎、機械・飼料庫	無償借用	親戚の廃業農家	
牛舎改修費	12,078千円	-	青年等就農資金
トラクター、モア、テッター	無償借用	親戚の廃業農家	
運転資金	10,000千円	-	青年等就農資金
繁殖素牛15頭	10,500千円	家畜市場	経営継承事業
妊娠牛15頭	15,000千円	家畜市場	経営継承事業
計	47,578千円		うち補助金11,152千円

4. 経営の概要

飼料

畑を3ha 借りて、イタリアンを作っています。餌やりは母牛・子牛ともに朝夕2回です。分娩2か月前からは**夕方**を**多め**にすることで、朝方から昼間の分娩になります。

繁殖管理

人工授精は牛の体型ができあがる、早い牛では12ヶ月頃から、獣医師に頼んでいます。大体分娩後50日前後、2回目の発情で人工授精し、1~2回で付きます。3回目でも付かない場合は投薬しています。人工授精の免許は農大で取得したので、後々は自分で付けたいと思っています。記録はノートとスマホのメモ機能を使っています。

哺乳

1週間で母子分離し、人工哺乳しています。

一日のスケジュール

朝8時から1時間程度餌やりをして、その後発情確認をしています。夕方は16時から朝と同様1時間で、夜も22時半頃から見回りをしています。

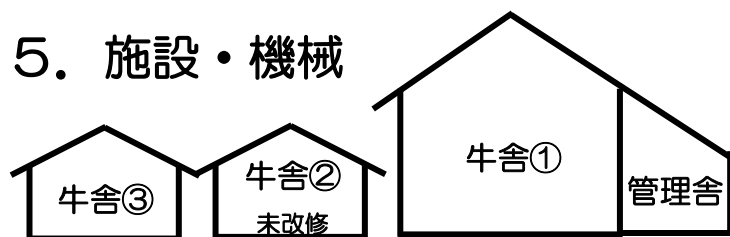
牛舎の2階に住んでいるため、すぐに様子を見に行くことができ便利です。カメラ等の導入も考えていません。まだ頭数が少なく余裕もあるため、昼間は他のバイト等をしています。

収入

まだ子牛の販売収入はないため、かなりギリギリの状態です。夏場の草刈り作業や、地域営農法人のオペレーター等のバイトでなんとか生活しています。



5. 施設・機械



牛舎③



牛舎①

親戚から元酪農牛舎を無償で借りています。3棟あるうちの2棟を改修して使用しています。
機械も最初は借りていましたが、買い取りました。

6. こだわり、気を付けていること

✦ とにかく発情を見逃さないように、しっかり観察すること

7. 就農までに苦労したこと

就農前の手続きに苦労しました。資金の申請や審査が予想以上に長引き、最初に相談してから就農するまで1年程度かかりました。もっと早くから準備を始め、しっかりと計画を立て、内容を詰めておくべきだったと思います。

8. 就農前に必要だと思うことやアドバイス

✦ 研修に行くなら餌やりだけのバイトではなく、何でもやらせてもらえるところにした方が良いでしょう。自分から積極的にいろいろ経験していくことが大切です。自分は、農大時代に通っていた牧場でたくさんの貴重な経験をさせてもらいました。

✦ 農大時代の同級生とは、就農後もお互いに情報交換をしています。相談できる仲間はいた方が良いでしょう。

9. 新規就農を目指す方へメッセージ

繁殖経営はとても大変で、それなりの覚悟がなければできません。本当にやりたいなら、しっかりと覚悟を持って頑張ってください！



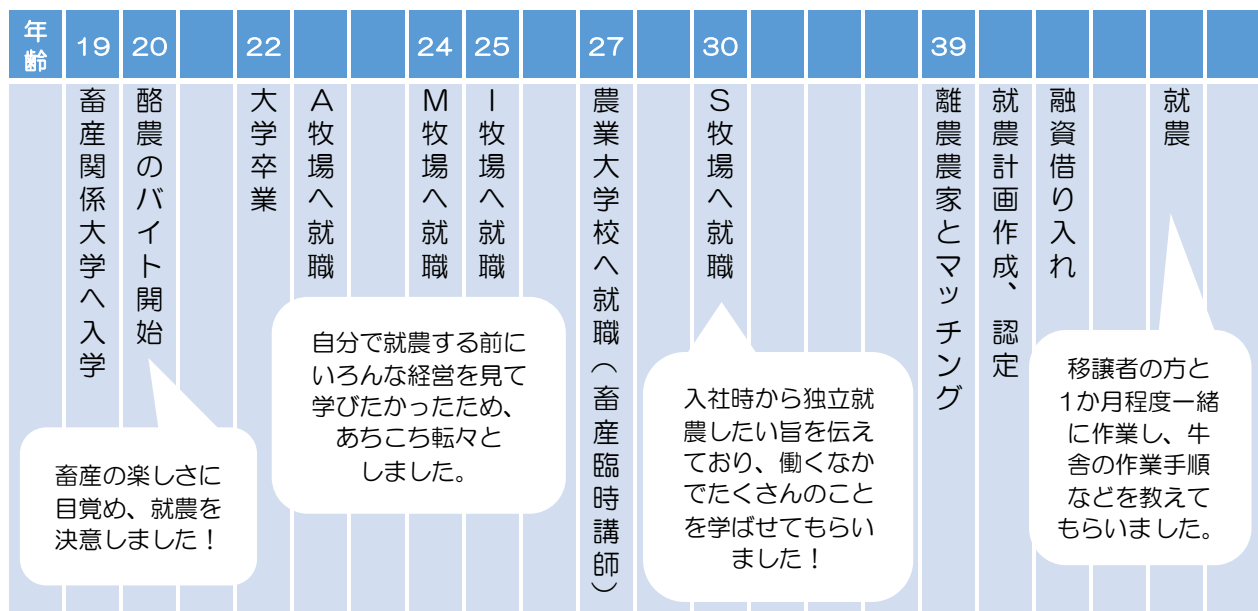
事例⑧【非農家出身 優良経営の第3者継承事例】

家族構成：夫（経営主）、妻、子2人
 就農年度：令和3年度（就農1か月目）
 農業従事者数：2人
 現在の経営規模：経産牛22頭、育成牛8頭
 飼料作物：イタリアン2ha

【概要】

大学時代の酪農アルバイトがきっかけで畜産をやりたいと思い、数カ所の農場を渡り歩きながら技術を学ぶ。菊池地域の先進的一貫経営で、8年間技術を学びながら空き牛舎情報を探し、地域の優良繁殖経営者とマッチングして牛舎・牛・機械等一式を継承。妻と2人で40頭規模まで増頭を目指す。

1. 経歴



2. 農業教育・研修等の経験

就学・就職先	内容	期間
大学（畜産関係学科）	畜産全般	H13.4～H17.3
A牧場（大規模繁殖）	飼養管理、繁殖管理、育成管理	H17.4～H19.3
M牧場（酪農）	搾乳、飼養管理、繁殖管理	H19.4～H20.3
I牧場（乳肉複合）	搾乳、飼養管理、繁殖管理、育成管理、飼料生産	H20.4～H22.3
農業大学校	臨時講師（畜産）	H22.4～H25.8
S牧場（一貫）	飼養管理、繁殖管理、育成管理	H25.9～R3.12

3. 設備投資等

内容	金額(税込)	購入元	制度資金・補助事業等
牛舎3棟、堆肥舎、ローダー	賃借	廃業農家	
ダンプ	無償譲渡	廃業農家	
牛温恵	350千円		青年等就農資金
トラクター	1,200千円	中古	青年等就農資金
妊娠牛22頭	16,900千円	廃業農家	青年等就農資金
繁殖牛(素牛)13頭	10,000千円	廃業農家	青年等就農資金
運転資金	7,000千円		青年等就農資金
計	35,450千円		

4. 経営の概要

飼料

イタリアンを2ha作る予定です。以前勤めていた牧場では、母牛の給餌は分娩1か月前から夕方1回にしていました。しかし、今の牛舎は分娩房がなく別給餌ができないため、群全体の給餌を朝少なめ、夕方多めでやってみて様子を見ようと思います。

繁殖管理

人工授精は自分で行っています。勤めていた時にもずっと自分がやっていたので、技術的に困ることはありません。受精卵移植免許も持っていますが、実際にやったことはありません。今後教えてもらい、自分でもやってみたいと思っています。

個体管理は、移譲者から受け継いだ管理版を使っています。種付け日や分娩予定日、前回の分娩日等のほか、色分けで産地もわかるようになっており、とても使いやすいです。移譲者の方がこれまで培ってきた歴史を感じる、貴重な財産のようなものです。



子牛の哺乳担当は妻です。
大学卒業以来ずっと畜産から離れていましたが、
就農後は日々の細やかな管理のおかげで子牛も
寄って来てくれます。

スマート農業機器

牛温恵を導入しています。前の勤め先では、20 日前に入れた未経産牛が産気づいたことがあると聞いたため、産気づいてもぎりぎり対応可能な 2 週間前に入れていました。現在は、分娩 1 週間前から入れています。

牛温恵によるトラブルは今までありません。勤めていた牧場では使用前に全部きれいに洗浄したうえで、半日ビルコンに浸けておくよう決められていました。

💡 作業マニュアル

以前勤めていた牧場には作業マニュアルがあり、ブラシなど牛房をまたがって複数の牛に使用するものはすべて洗浄・消毒するよう決められていました。このように、以前からやっていたことで続けられるものはできるだけ続けていきたいと思っています。

5. 施設



母牛舎①



母牛舎②



牛舎は古いですがとても綺麗に使われていました。ただ、少し幅が狭かったり、分娩房がなかったりするので、使い勝手を良くするためにいろいろ考えていきたいと思います。

運動場



頭絡の色で系統がわかるようになっている



6. 就農までに苦労したこと

✦ 企業畜産に勤めていた時がとても大変でした。自分が居た頃は繁殖母牛 3000 頭から 5000 頭に拡大中で、月に 120 頭程の分娩があったため、寝る暇がありませんでした。若くて体力がある時に経験できてよかったと思っています。また、大変な経験をしたからこそ、今は少しくらい辛くても乗り越えられると思います。

7. 就農前に必要だと思うことやアドバイス

✦ 運もありますが、何より**人脈をつくること**が大事だと思います。この牛舎は、生菌剤を扱うメーカーの社長から紹介してもらいました。学生時のバイト先で知り合ってから長い付き合いで、ずっと「就農したい」と相談していたところ、離農される農家がいると教えてくれました。勤めていた農場から割と近かったのですが、情報をもらうまで移譲者の方とは面識がありませんでした。

✦ 常に情報収集を行っていれば、タイミングさえ合えばとんとん拍子で決まります。自分は製薬会社等にも声をかけていました。たくさんの人に声をかけて、**就農したいと言伝えておく**だけで違ってきます。働いていると、自分が動けるのは休日のみです。団体職員やメーカーの営業マン等、いろんなところを回る人に頼んで、情報をつかみに行くと良いと思います。

8. 新規就農を目指す方へメッセージ

大事なものは「本当に就農したい！」という熱意だと思います。諦めずに思い続けていれば、いつかきっと叶います。
一緒に頑張りましょう！





8 参考資料

① 就農準備チェックシート・・・・・・・・・・・・・・・・・・P57

② 頭数別牛舎設計モデル・・・・・・・・・・・・・・・・・・P59

② 和牛子牛の哺育・育成飼料給与体系・・・・・・・・・・P61

③ お問い合わせ先・・・・・・・・・・・・・・・・・・P62



《就農準備チェックシート》

すべての項目にチェックがついていなくても大丈夫です。まずは何が必要で、何が不足しているのかを確認してみましょう。

☐ 家族の同意

☐ 経営計画の説明

☐ 当面の生活費の確保

☐ 就農場所

☐ 土地（牛舎等建設用地）（ 購入 ・ 賃借 ）

☐ 地目変更（農地転用）

☐ 施設（ 新設 ・ 購入 ・ 賃借 ）

☐ 母牛舎（ ）㎡

☐ 育成舎（ ）㎡

☐ 哺育舎（ ）㎡

☐ 分娩舎（ ）㎡

☐ 飼料庫（ ）㎡

☐ 堆肥舎（ ）㎡

☐ 機械庫（ ）㎡

☐ 敷料庫（ ）㎡

☐ 管理舎（ ）㎡

☐ 必要な面積が確保できているか

☐ 建築確認申請（新設の場合）

☐ 自宅

☐ 持ち家

☐ 賃貸

☐ 実家

☐ 自宅と牛舎の距離（ ）km

☐ 通勤時間（ ）分

☐ 転居の必要（ 有 ・ 無 ）

☐ 家畜

☐ 5年後の目標飼養頭数（ ）頭

☐ 最終目標頭数（ ）年後までに（ ）頭

☐ 購入場所（ ）

☐ 素牛（ ）頭

☐ 初妊牛（ ）頭

☐ 妊娠牛（ ）頭

☐ その他（ ）（ ）頭

☐ 増頭計画（動態表）作成

☐ 機械

☐ 軽トラック（資材等運搬）

☐ トラック（2 t～）（家畜・堆肥等運搬）

☐ スキッドステアローダー

☐ ホイルローダー

☐ ロールグラブ

☐ 飼料

（母牛）

☐ 濃厚飼料（ ） 購入元（ ）

☐ 粗飼料（ ） 購入元（ ）

☐ 添加剤等（ ） 購入元（ ）

（子牛）

☐ 代用乳（ ） 購入元（ ）

☐ スターター（ ） 購入元（ ）

☐ 粗飼料（ ） 購入元（ ）

☐ 添加剤等（ ） 購入元（ ）

☐ 堆肥処理 ☐ 畑へ散布 () ha ☐ 共同堆肥センターへ搬出 ☐ 耕種農家へ提供 ☐ その他 ()		
☐ 自給飼料 ☐ 農地 所有地 ・ 借地 () ha ☐ 作目 ☐ 稲WCS ☐ イタリア ☐ 稲わら ☐ 麦わら ☐ その他 () ☐ 自給飼料用機械 ☐ トラクター ☐ マニアスプレッダ ☐ ロータリー ☐ フロントローダ ☐ モア ☐ プロートキャスト ☐ ディスクハロー ☐ パワーハロー ☐ テグダ ☐ レーキ ☐ ロールバレー ☐ ラビソグマシ		
☐ 関係団体、組織 ☐ 団体への加入 ☐ JA ☐ 畜産農協 ☐ 農業共済 ☐ 関係組織等 ☐ 獣医師 ☐ 家畜保健衛生所 ☐ 家畜人工授精師 ☐ 削蹄師 ☐ 運送業者 ☐ 機械・車両メンテナンス業者 ☐ 畜産関連資材取扱業者 ☐ ノコクス（敷料）業者 ☐ 税理士		
☐ 地域との接点 ☐ 周辺農家への挨拶 ☐ 地域住民の同意（区長等） ☐ 繁殖農家の知人、相談相手		
☐ 技術・経験 ☐ 肉用牛繁殖業務に携わった通算年数 () 年 ☐ 農業大学校 ☐ 農場() ☐ その他() (具体的な作業) ☐ 給餌、清掃作業等 ☐ 分娩、出生子牛のケア ☐ 子牛管理（哺育・育成） ☐ 母牛管理（繁殖管理、AI等） ☐ 出荷作業 ☐ 主要機械の運転		
☐ 資金 就農に必要な経費 () 円 (内訳) { 牛舎・堆肥舎等 () 円 機械 () 円 牛 () 円 餌代等運転資金 () 円 1年間に必要な生活費 () 円 ローン、奨学金等 () 円 その他 () 円 ☐ 貯金 () 円 ☐ 融資 () 円 ☐ その他 () 円		
☐ 免許 ☐ 家畜人工授精師免許 ☐ 普通自動車運転免許 ☐ 中型免許 ☐ 大型特殊免許 ☐ けん引免許		
☐ 各種届出等 ☐ 青年等就農計画（市町村） ☐ 家畜保健衛生所への報告 ☐ 税務署への届出 (開業届・青色申告承認申請書等)		

飼養規模： 母牛 50 頭 ……A

【牛床面積の目安】

(参考：草地開発整備事業計画設計基準)

繁殖牛舎

① 繁殖牛房（成牛）

1頭当たり必要面積：5.0～10.0㎡

繁殖牛房での常時飼養頭数は 46 頭 ……B=A-C
6.3 ㎡/頭 × 46 頭 = 288 ㎡

② 分娩房

1頭当たり必要面積：およそ13㎡

分娩間隔が12.5ヵ月とすると1ヶ月あたりの分娩頭数は

50 頭 ÷ 12.5 ヶ月 = 4 頭 ……C

分娩期の約1ヵ月間飼養するため

18 ㎡/頭 × 4 頭 × = 72 ㎡

③ 育成牛房（10～24ヵ月齢）

1頭当たり必要面積：2.6～3.9㎡

育成牛房での常時飼養頭数は 9 頭 ……D=A×13.9%×15/12

4 ㎡/頭 × 9 頭 = 36 ㎡

哺乳・子牛舎

① 哺乳牛房（0～3ヵ月齢（人工哺乳））

1頭当たり必要面積：

常時飼養頭数は 12 頭 ……F=C×3
1.9 ㎡/頭 × 12 頭 = 23 ㎡

② 子牛房（4～9ヵ月齢）

1頭当たり必要面積：2.6～3.9㎡

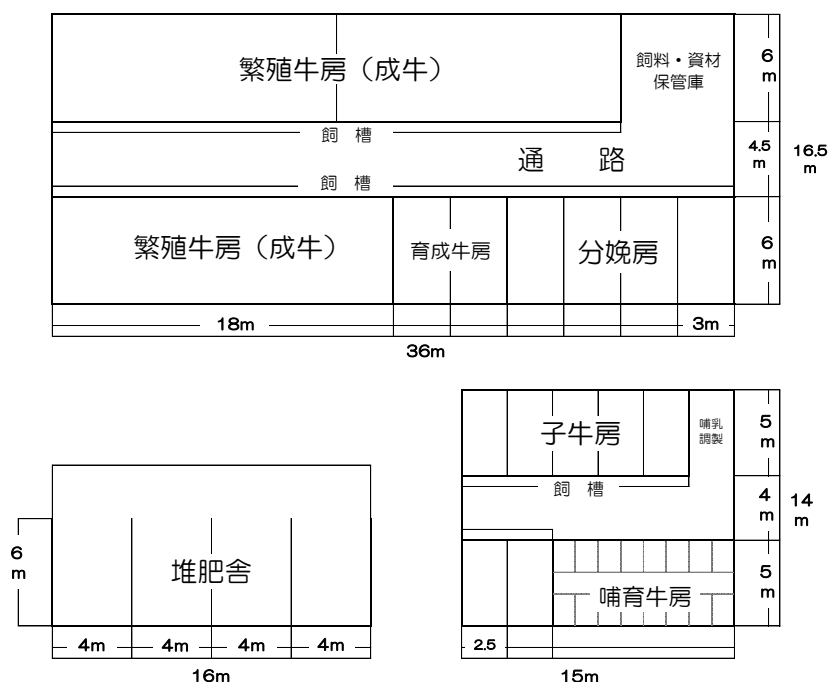
育成房での常時飼養頭数は 24 頭 ……E=C×6

3.7 ㎡/頭 × 24 頭 = 88 ㎡

堆肥舎

【牛舎レイアウトイメージ】

牛床面積： 804 ㎡



飼養規模： 母牛 80 頭 ……A

【牛床面積の目安】

(参考：草地開発整備事業計画設計基準)

繁殖牛舎

① 繁殖牛房（成牛）

1頭当たり必要面積：5.0～10.0㎡

繁殖牛房での常時飼養頭数は 73 頭 ……B=A-C

$$\text{6.4 m}^2/\text{頭} \times \text{73 頭} = \text{468 m}^2$$

② 分娩房

1頭当たり必要面積：おおよそ13㎡

分娩間隔が12.5ヵ月とすると1ヶ月あたりの分娩頭数は

$$\text{80 頭} \div \text{12.5 ヶ月} = \text{7 頭} \dots\dots C$$

分娩期の約1ヵ月間飼養するため

$$\text{18 m}^2/\text{頭} \times \text{7 頭} \times = \text{126 m}^2$$

③ 育成牛房（10～24ヵ月齢）

1頭当たり必要面積：2.6～3.9㎡

育成牛房での常時飼養頭数は 14 頭 ……D=A×13.9%×15/12

$$\text{3.9 m}^2/\text{頭} \times \text{14 頭} = \text{54 m}^2$$

哺乳・子牛舎

① 哺乳牛房（0～3ヵ月齢（人工哺乳））

1頭当たり必要面積：

常時飼養頭数は 21 頭 ……E=C×3

$$\text{1.9 m}^2/\text{頭} \times \text{21 頭} = \text{40 m}^2$$

② 子牛房（4～9ヵ月齢）

1頭当たり必要面積：2.6～3.9㎡

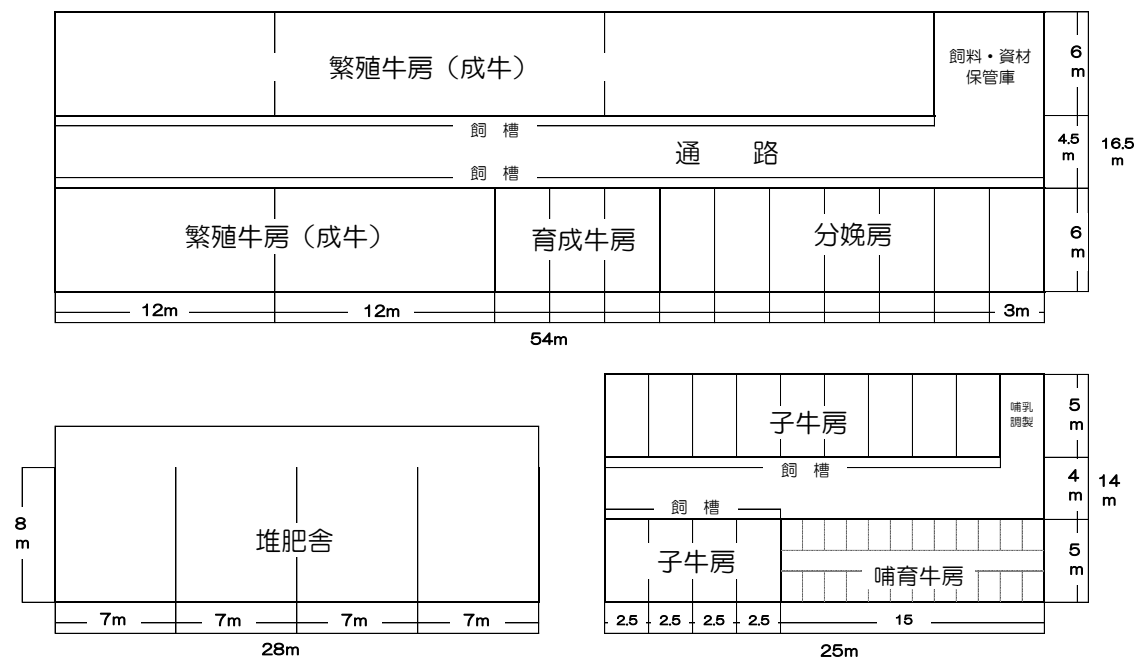
育成房での常時飼養頭数は 42 頭 ……F=C×6

$$\text{3.9 m}^2/\text{頭} \times \text{42 頭} = \text{163 m}^2$$

堆肥舎

【牛舎レイアウトイメージ】

牛床面積： 1,241 ㎡



和牛子牛の哺育・育成飼料給与体系

月齢		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
日齢		0	30	61	91	122	152	182	213	243	274
発育基準（kg）	♂	39	57	78	103	133	165	199	234	270	306
	♀	30	46	65	88	113	140	168	197	224	250
初乳		分娩後30分以内（遅くとも2時間以内）に給与。4ℓ／日を2～3回に分けて									
代用乳		250g／1.5～2.0ℓのお湯×朝夕2回給与（2ヶ月間）									
人工乳		少々	不断 給与	不断 給与							
育成飼料（kg）				少々	2.5	3	3	3.5	3.5	4	4
乾牧草（kg）		50g	100g	0.3	0.5	2	2.5	3	3.5	3.5	4
稲わら（kg）									0.1	0.2	0.2
水		1～2ℓ／日のお湯		不断給与（新鮮な水）							
管理		離乳 去勢 出荷 →									
（注意事項）		下痢 ワクチン投与									



菊池地域 畜産新規就農関係 お問い合わせ先

名称	住所	電話番号
J A 菊池 畜産部 畜産企画課	菊池市旭志川辺1875	0968-23-3210
J A 菊池 畜産部 畜産課		0968-23-3208
熊本県畜産農業協同組合 中央支所	菊池市旭志川辺1035-2	0968-36-9811
熊本県家畜市場	菊池郡大津町岩坂1485	096-294-1777
熊本県農業共済組合菊池支所 第2事業課	菊池市旭志川辺1993	0968-37-3000
熊本県農業共済組合菊池支所 家畜診療所		0968-37-3877
菊池市役所 経済部 農政課	菊池市隈府888番地	0968-25-7221
菊池市農業委員会		0968-25-7235
合志市役所 産業振興部 農政課	合志市竹迫2140番地	096-248-1445
合志市農業委員会		096-248-1487
大津町役場 経済部 農政課	菊池郡大津町大字大津1233	096-293-3116
大津町農業委員会		096-293-6686
菊陽町役場 経済部 農政課	菊池郡菊陽町大字久保田2800番地	096-232-4916
菊陽町農業委員会		096-232-4924
城北家畜保健衛生所	山鹿市鹿本町御宇田198-5	0968-46-2075
熊本県菊池保健所 衛生環境課	菊池市隈府1272-10	0968-25-4135
熊本県県北広域本部 農業普及・振興課		0968-25-4279
熊本県農林水産部 農業技術課	熊本市中央区水前寺6丁目18-1	096-333-2428
熊本県農林水産部 農地・担い手支援課		096-333-2432
熊本県農林水産部 畜産課		096-333-2397
熊本県新規就農支援センター		096-385-2679



令和4年3月8日 初版